

# 積算参考資料 ( 起工 )

工 事 名： 鳥取県環境管理事業センター産業廃棄物管理型最終処分場下流水路改修工事

工事箇所： 鳥取県米子市淀江町小波



○カルバートエ



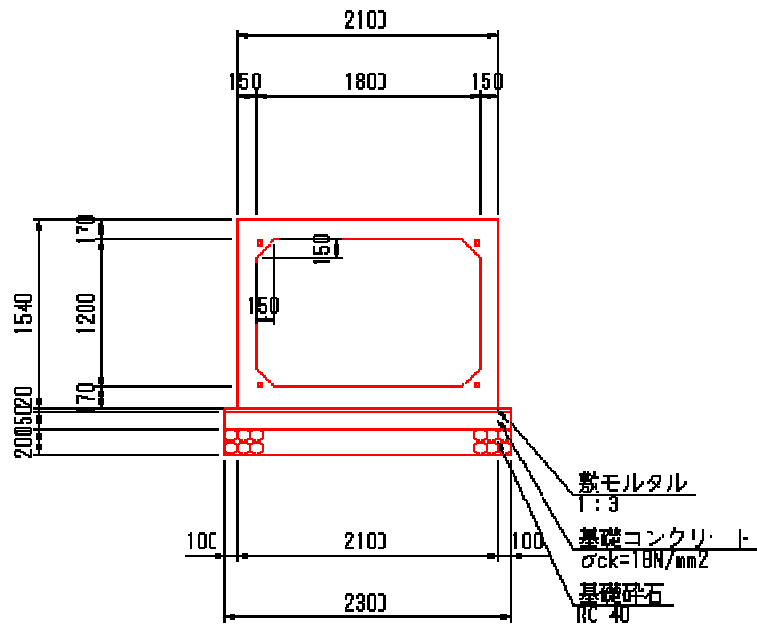
## カルバート工 数量計算書

[illegible]

[illegible]

# 1号ボックスカルバート(B1800×H1200)

標準断面図 S=1:50



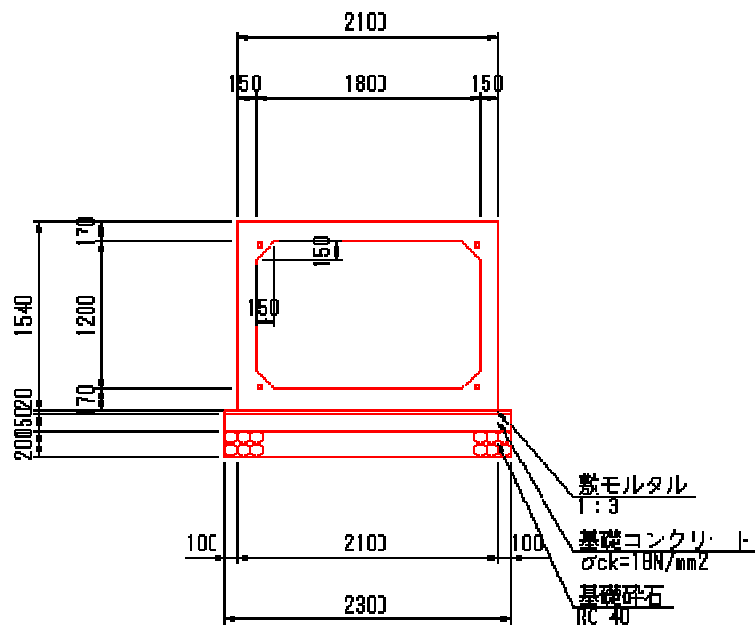
施工延長:8.290m

名 称	規 格	単位	算 式	数 量
ボックスカルバート	標準型	本	L=2.000m、W=5600kg	1.0
(B1800×H1200)	斜切、フランジ継手	本	L=1.000m、W=2800kg	1.0
	斜切、箱抜、フランジ継手	本	L=0.999m、W=2797kg	1.0
	斜切、箱抜、フランジ継手	本	L=1.251m、W=3503kg	1.0
	斜切、箱抜、フランジ継手	本	L=1.493m、W=4180kg	1.0
	異形、箱抜	本	L=1.547m、W=4332kg	1.0
PC鋼より線	SWPR7BL φ15.2mm	本	2.6m	2.0
	"	本	3.6m	2.0
	"	本	5.6m	2.0
	"	本	6.2m	2.0
	合計	(m)		36.0
PC用定着装置	後付用 30T型(φ15.2mm用)	組	(組内訳 アンカープレート1個、グリップ1個)	16.0
基礎碎石	RC-40、t=200mm	m2	2.300×8.210	18.883
基礎コンクリート	σck=18N/mm2	m3	2.300×0.150×8.210	2.832
同上型枠		m2	0.150×2×8.210	2.463
敷モルタル	1:3	m3	2.300×0.020×8.210	0.378

備 考

# 1号ボックスカルバート(B1800×H1200)

標準断面図 S=1:50



製品規格 (B×H)	番号	PC鋼材	許容緊張力 (kN)	緊張力算出式	緊張力 Pt(kN)	判定
B1800×H1200	2～3	PC鋼より線 φ15.1mm	180	$1.0 \times (27.97 + 35.03) / 2$	32	OK
B1800×H1200	4～6	PC鋼より線 φ15.2mm	180	$1.0 \times (41.80 + 56.00 + 43.32) / 2$	71	OK

## 緊張力算出式

$$Pt \geq (\mu \cdot W \cdot N) / 2$$

ここに

Pt : 緊張力(PC鋼材の許容緊張力以下とする) (kN)

μ : 摩擦係数(≤1.0)

W : 製品1本の質量(kN)

N : 1つの連結区間における製品本数

備考



基礎工材料表

名称	規格	単位	数量	備考
基礎砕石	RC-40,t=200mm	m2	18.883	
基礎コンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$	m3	2.832	
同上型枠		m2	2.463	
敷モルタル	1:3	m3	0.378	

プレキャストボックスカルバート(B1800×H1200)数量表

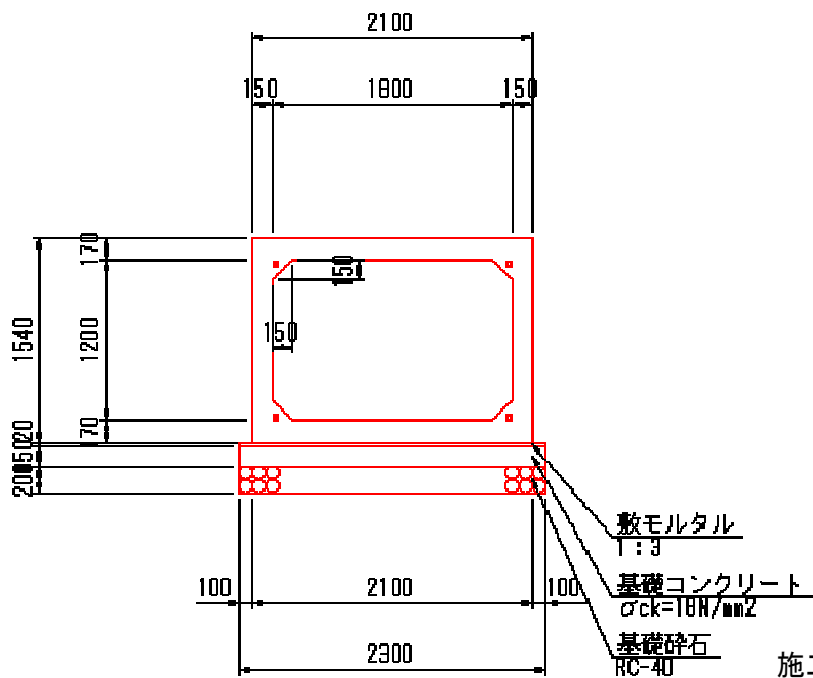
番号	種別	L(m)	個数	重量(kg)
5	標準型	2.000	1	5600
1	斜切、フランジ継手	1.000	1	2800
2	斜切、箱抜、フランジ継手	0.999	1	2797
3	斜切、箱抜、フランジ継手	1.251	1	3503
4	斜切、箱抜、フランジ継手	1.493	1	4180
6	異形、箱抜	1.547	1	4332

PC鋼より線材料表

種別	数量
PC鋼より線 SWPR7BL $\phi 15.2\text{mm}$	2.6m × 2本
PC鋼より線 SWPR7BL $\phi 15.2\text{mm}$	3.6m × 2本
PC鋼より線 SWPR7BL $\phi 15.2\text{mm}$	5.6m × 2本
PC鋼より線 SWPR7BL $\phi 15.2\text{mm}$	6.2m × 2本
PC用定着装置 後付用 30T型( $\phi 15.2\text{mm}$ 用)	16組

2号ボックスカルバート(B1800×H1200)

標準断面図 S=1:50

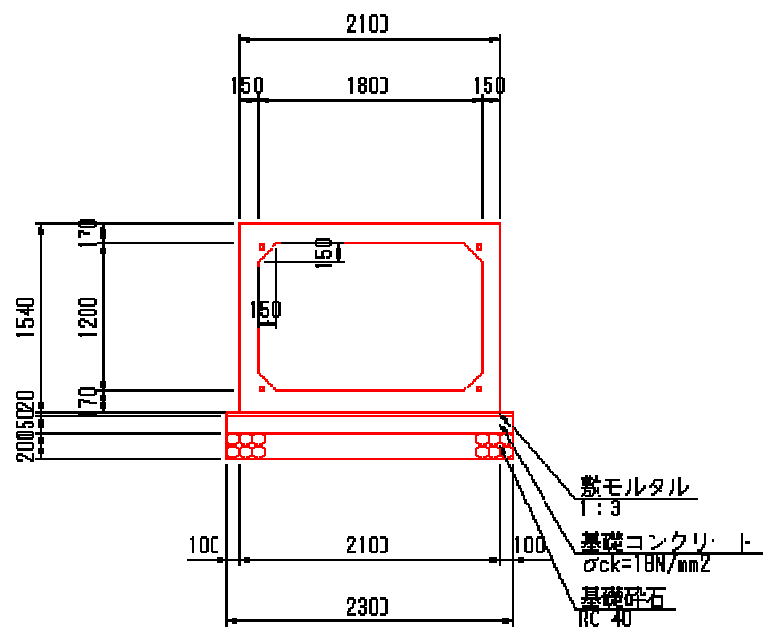


名 称	規 格	単位	算 式	数 量
ボックスカルバート	標準型	本	L=2.000m、W=5600kg	2.0
(B1800×H1200)	異形、箱抜	本	L=1.500m、W=4200kg	1.0
	標準型、箱抜	本	L=2.000m、W=5600kg	1.0
PC鋼より線	SWPR7BL φ15.2mm	本	8.0m	4.0
	合計	(m)		32.0
PC用定着装置	後付用 30T型(φ15.2mm用)	組	(組内訳 アンカープレート1個、グリップ1個)	8.0
基礎碎石	RC-40、t=200mm	m2	2.300×7.580	17.434
基礎コンクリート	σck=18N/mm2	m3	2.300×0.150×7.580	2.615
同上型枠		m2	0.150×2×7.580	2.274
敷モルタル	1:3	m3	2.300×0.020×7.580	0.349

備 考

2号ボックスカルバート(B1800×H1200)

標準断面図 S=1:50



製品規格 (B×H)	番号	PC鋼材	許容緊張力 (kN)	緊張力算出式	緊張力 $P_t$ (kN)	判定
B1800×H1200	1～4	PC鋼より線 $\phi 15.2\text{mm}$	180	$1.0 \times (42.00 + 56.00 + 56.00 + 56.00) / 2$	105	OK

緊張力算出式

$$P_t \geq (\mu \cdot W \cdot N) / 2$$

ここに

$P_t$  : 緊張力(PC鋼材の許容緊張力以下とする) (kN)

$\mu$  : 摩擦係数( $\leq 1.0$ )

$W$  : 製品1本の質量(kN)

$N$  : 1つの連結区間における製品本数

備考

基礎工材料表

名称	規格	単位	数量	備考
基礎碎石	RC-40,t=200mm	m2	17.434	
基礎コンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$	m3	2.615	
同上型枠		m2	2.274	
敷モルタル	1:3	m3	0.349	

プレキャストボックスカルバート(B1800×H1200)数量表

番号	種別	L(m)	個数	重量(kg)
2・3	標準型	2.000	2	5600
1	異形、箱抜	1.500	1	4200
4	標準型、箱抜	2.000	1	5600

PC鋼より線材料表

種別	数量
PC鋼より線 SWPR7BL $\phi 15.2\text{mm}$	8.0m × 4本
PC用定着装置 後付用 30T型( $\phi 15.2\text{mm}$ 用)	8組

# ○排水構造物工



排水構造物工 数量計算書

[illegible]

作業土工

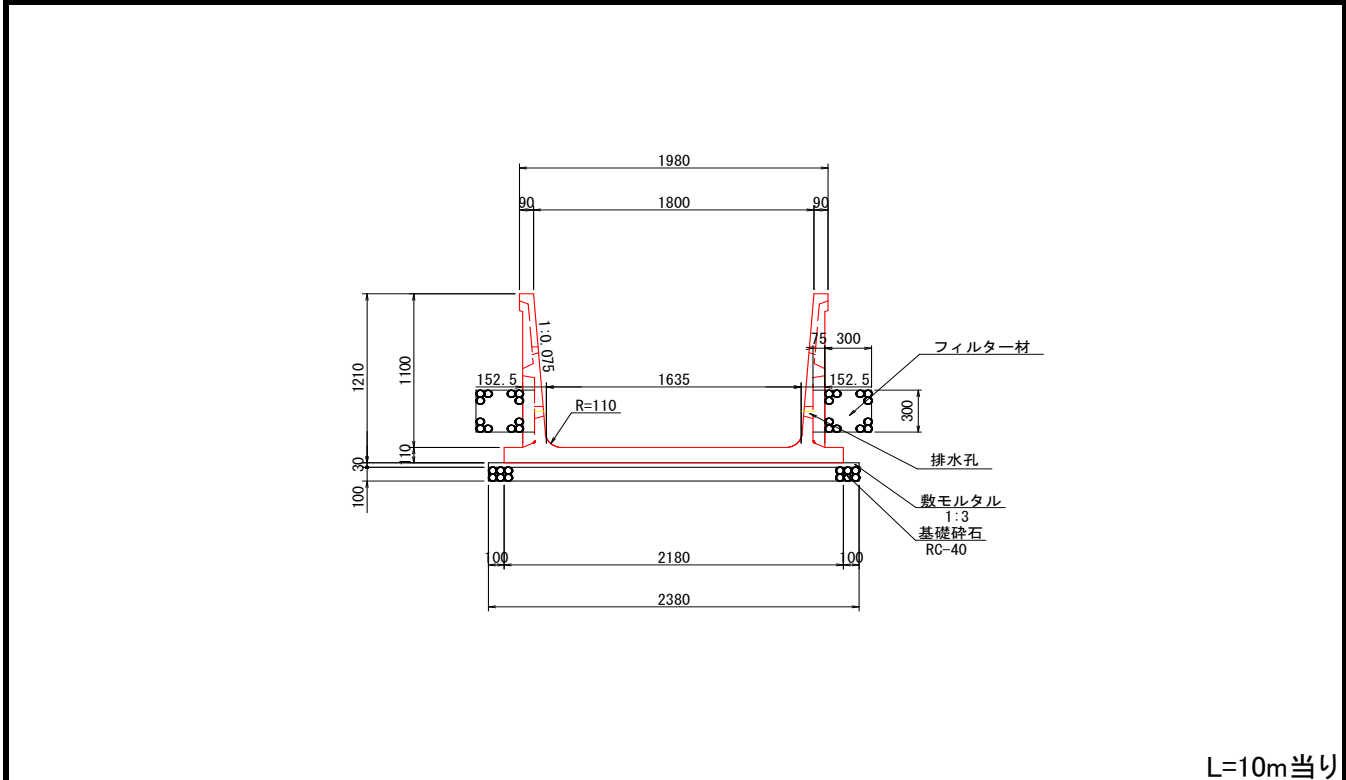
測 点	距 離	修 正 距 離	床掘			埋戻			摘 要
			断面	平均 断面	m3	断面	平均 断面	m3	
	0.0		2.7			1.4			N0.-1付近同断面
N0. -1	19.6		2.7	2.70	52.9	1.4	1.40	27.4	
	11.1		2.7	2.70	30.0	1.4	1.40	15.5	N0.-1付近同断面
	0.0		3.4			2.0			N0.1付近同断面
N0. 1	20.0		3.4	3.40	68.0	2.0	2.00	40.0	
N0. 2	20.0		0.8	2.10	42.0	1.5	1.75	35.0	
N0. 3	20.0		3.6	2.20	44.0	2.3	1.90	38.0	
N0. 4	20.0		0.9	2.25	45.0	1.7	2.00	40.0	
N0. 5	20.0		1.5	1.20	24.0	1.8	1.75	35.0	
N0. 6	20.0		2.0	1.75	35.0	1.9	1.85	37.0	
N0. 7	20.0		1.7	1.85	37.0	1.7	1.80	36.0	
N0. 8	20.0		1.1	1.40	28.0	1.6	1.65	33.0	
N0. 9	20.0		1.6	1.35	27.0	1.7	1.65	33.0	
N0. 10	20.0		1.2	1.40	28.0	1.2	1.45	29.0	
N0. 11	20.0		0.8	1.00	20.0	0.7	0.95	19.0	
N0. 12	20.0		1.3	1.05	21.0	2.1	1.40	28.0	
N0. 13	20.0		1.9	1.60	32.0	1.6	1.85	37.0	
N0. 14	20.0		2.3	2.10	42.0	1.8	1.70	34.0	
N0. 15	20.0		10.0	6.15	123.0	6.2	4.00	80.0	
	2.4		10.0	10.00	24.0	6.2	6.20	14.9	N0.15付近同断面
	0.0		6.1			2.8			N0.16付近同断面
N0. 16	14.6		6.1	6.10	89.1	2.8	2.80	40.9	
N0. 17	20.0		6.3	6.20	124.0	2.9	2.85	57.0	
N0. 18 +12.00	12.0		5.0	5.65	67.8	2.4	2.65	31.8	
N0. 19	8.0		5.1	5.05	40.4	2.4	2.40	19.2	
	6.1		5.1	5.10	31.1	2.4	2.40	14.6	N0.19付近同断面
RC-D400		8.5	3.5	3.50	29.8	2.9	2.90	24.7	
合 計					1105			800	



排水構造物工 延長調書					
細 別 規 格	右・ 左別	起 点	終 点	延 長	摘 要
排水工					
プレキャスト水路 (B1800×H1100)		NO.0 +2.4	NO.1 +18.1	35.7	
		NO.2 +0.3	NO.3 +14.1	33.8	
合計				69.5 m	
プレキャスト水路(落差工) (B1800×H1100)		NO.1 +18.1	NO.2 +0.3	2.3	
		NO.3 +14.1	NO.3 +15.6	1.5	
合計				3.8 m	
プレキャスト水路 (B1800×H1200)		NO.3 +15.6	NO.7 +6.7	71.1	
		NO.7 +15.4	NO.10 +17.9	63.5	
		NO.11 +0.8	NO.14 +14.9	74.1	
合計				208.7 m	
プレキャスト水路 (B2800×H1400)		NO.15 +5.4	NO.17 +12.1	46.7	
		NO.17 +18.4	NO.19 +6.1	27.8	
合計				74.5 m	
現場打U型水路 (B2800×H1400)		NO.17 +2.1	NO.17 +18.4	6.4 m	
現場打L型水路	右	NO.-1 -19.6	NO.-1 -11.3	27.7 m	
PU1-300B	右	NO.0 -12.6	NO.0 -10.7	2.0 m	
CP1-RC-D400	右	NO.0 -9.7	NO.0 -2.0	8.5 m	
嵩上コンクリート		NO.19 +6.3	NO.19 +9.4	7.0 m	
1号集水柵		NO.0 -10.1		1.0 箇所	
2号集水柵		NO.0 +1.2		1.0 箇所	

[illegible]

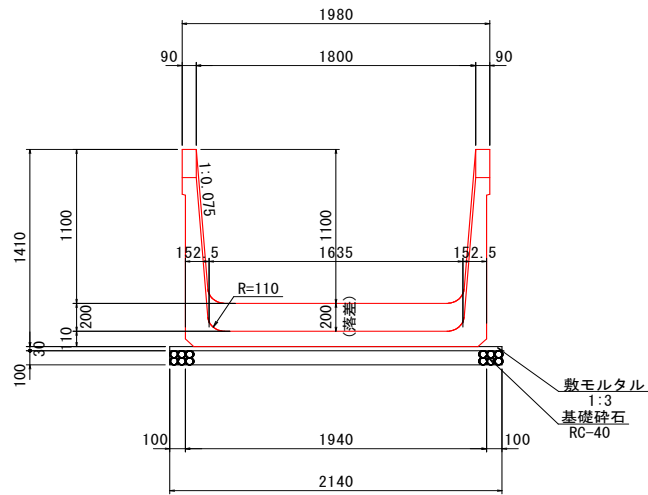
プレキャスト水路数量計算書  
B1800×H1100



名 称	規 格	單位	算 式	数 量
-----	-----	----	-----	-----

大型フリーム (農業土木型)	B1800×H1100	個	10.00/2.0	5.0
敷モルタル	1:3	m3	2.380*0.030*10.00	0.7
基礎碎石	RC-40 t=100mm	m2	2.380*10.00	23.8
フィルター材	C-40	m3	0.375*0.300*10.00*2	2.3

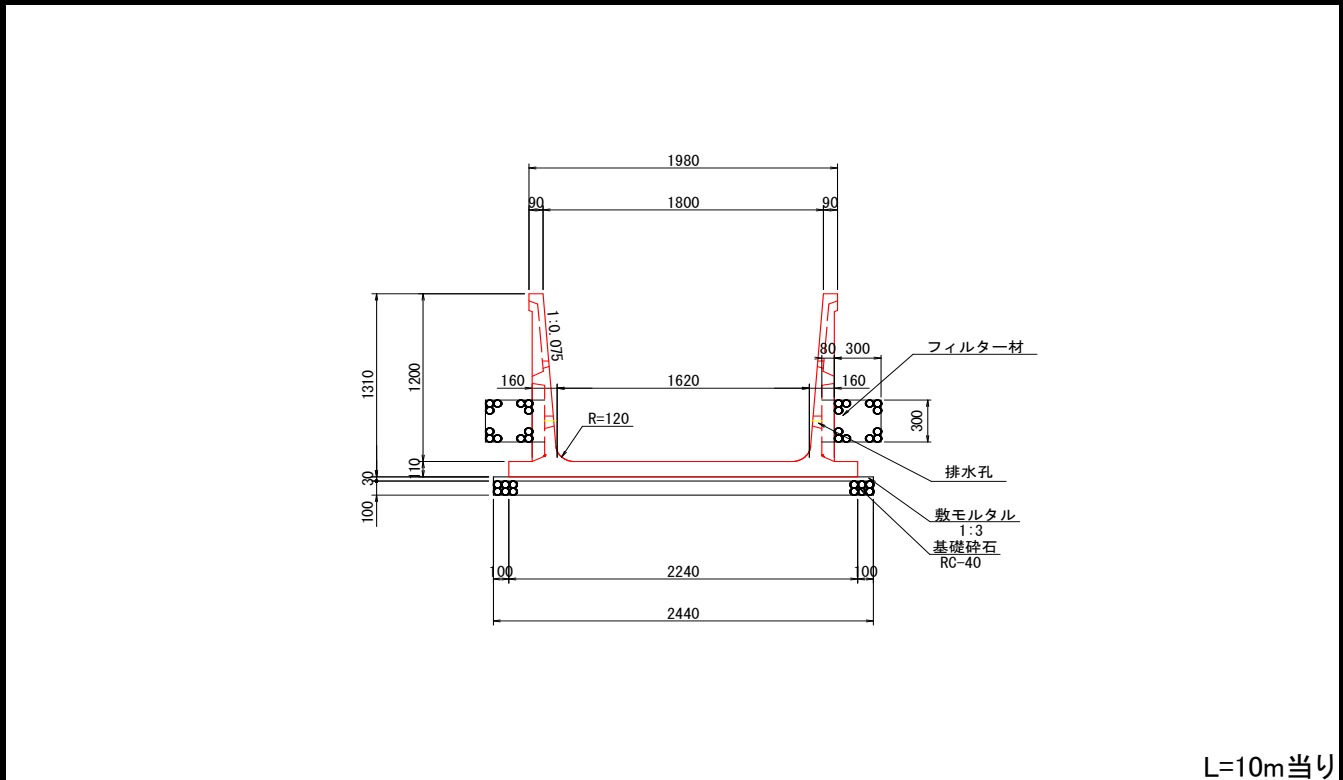
# プレキャスト水路数量計算書 B1800×H1100(落差工)



L=10m当り

名 称	規 格	単 位	算 式	数 量
大型フリーダム (落差タイプ)	B1800×H1100	個	10.00/0.75	13.3
敷モルタル	1:3	m3	2.140*0.030*10.00	0.6
基礎砕石	RC-40 t=100mm	m2	2.140*10.00	21.4

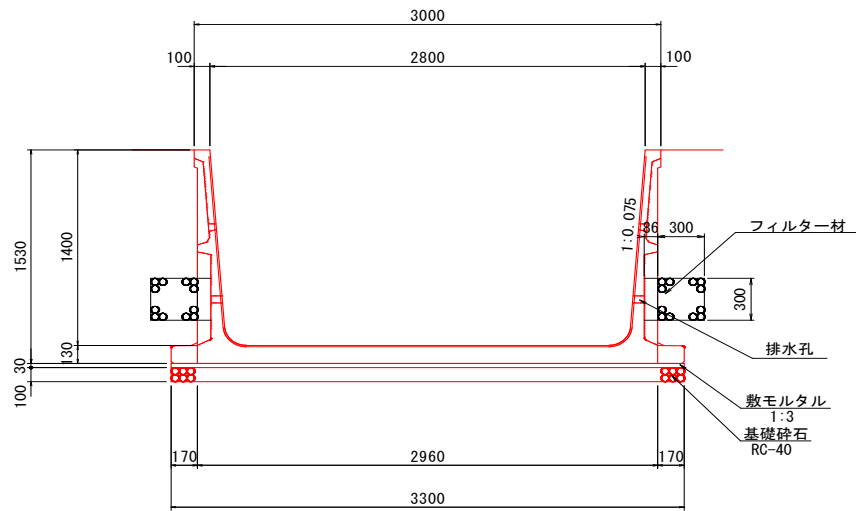
プレキャスト水路数量計算書  
B1800×H1200



名 称	規 格	單位	算 式	数 量
-----	-----	----	-----	-----

大型フリーム (農業土木型)	B1800×H1200	個	10.00/2.0	5.0
敷モルタル	1:3	m3	2.440*0.030*10.00	0.7
基礎砕石	RC-40 t=100mm	m2	2.440*10.00	24.4
フィルター材	C-40	m3	0.380*0.300*10.00*2	2.3

# プレキャスト水路数量計算書 B2800×H1400

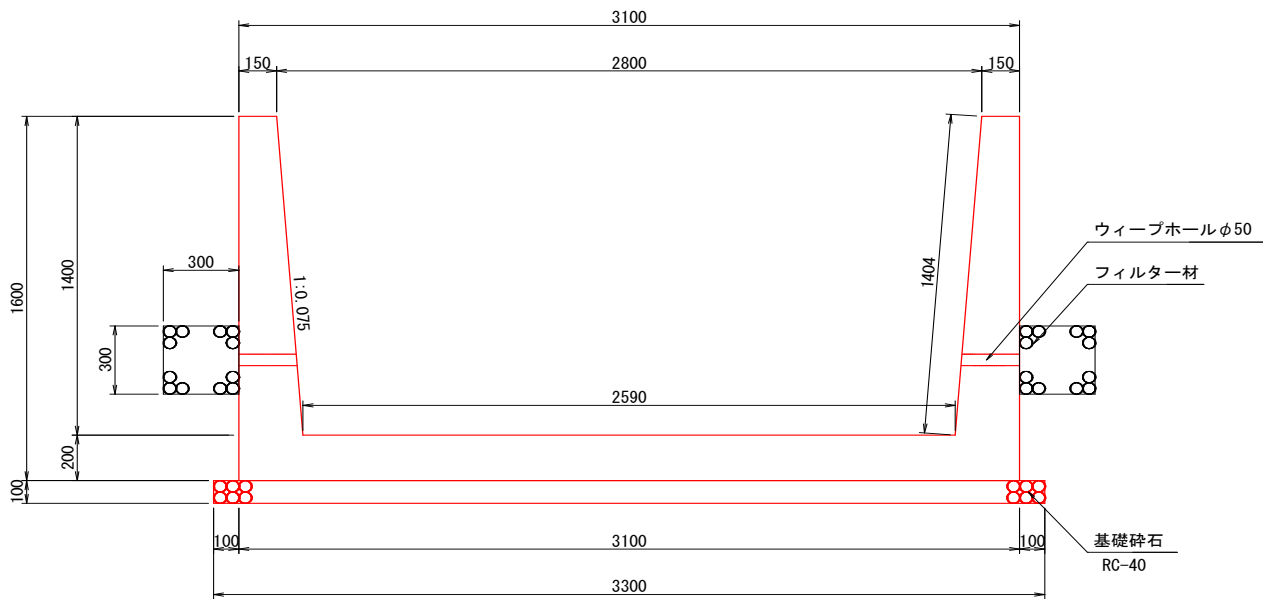


L=10m当り

名 称	規 格	単 位	算 式	数 量
大型フリューム (農業土木型)	B2800×H1400	個	10.00/2.0	5.0
敷モルタル	1:3	m3	3.300*0.030*10.00	1.0
基礎砕石	RC-40 t=100mm	m2	3.300*10.00	33.0
フィルター材	C-40	m3	0.386*0.300*10.00*2	2.3

# 現場打U型水路数量計算書

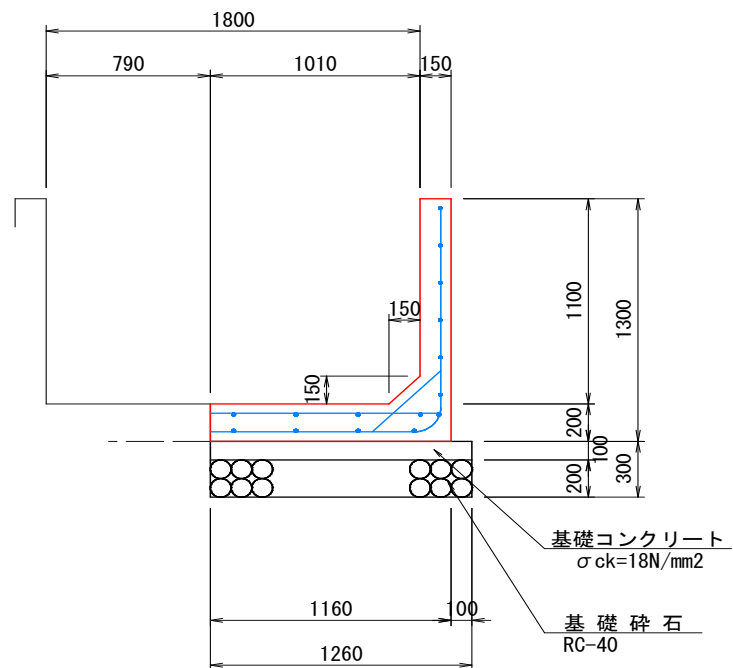
## B2800×H1400



L=10m当り

名 称	規 格	単位	算 式	数 量
コンクリート	24-12-20	m3	$(3.100 \times 1.600 - (2.800 + 2.590) / 2 \times 1.400) \times 10.000$	11.9
型枠		m2	$(1.600 + 1.404) \times 2 \times 10.000$	60.1
基礎碎石	RC-40 t=100mm	m2	$3.300 \times 10.000$	33.0
鉄筋	SD345D13	kg		502.0
フィルター材	C-40	m3	$0.300 \times 0.300 \times 2 \times 10.000$	1.8

現場打L型水路数量計算書



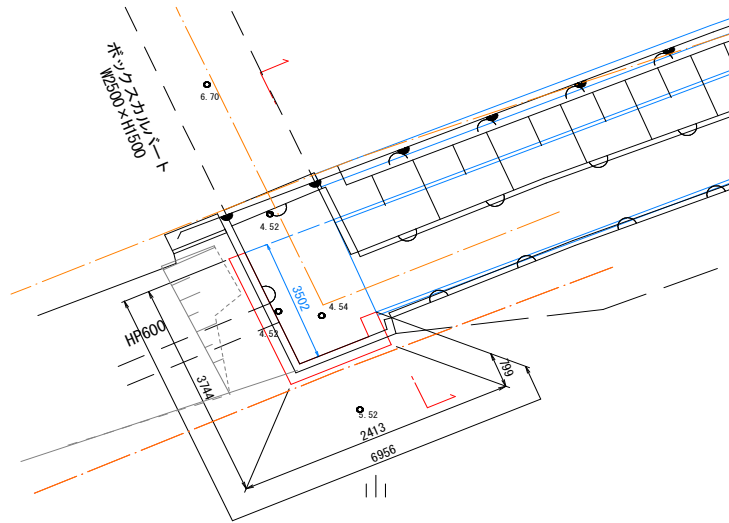
L=10m当り

名 称	規 格	単位	算 式	数 量
コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	m3	$(1.16 \times 0.20 + 0.15 \times 1.10 + 1/2 \times 0.15 \times 0.15) \times 10.0$	4.1
型枠		m2	$(1.30 + 0.95 + 0.212) \times 10.0$	24.6
基礎コンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$	m3	$1.26 \times 0.10 \times 10.0$	1.3
同上型枠		m2	$0.10 \times 10.0$	1.0
基礎碎石	RC-40 t=200mm	m2	$1.26 \times 10.0$	12.6
鉄筋	SD295D10	kg		33.0
鉄筋	SD345D13	kg		219.0

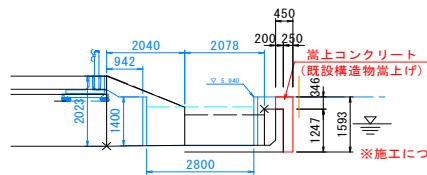


# 嵩上コンクリート数量計算書

平面図



断面図



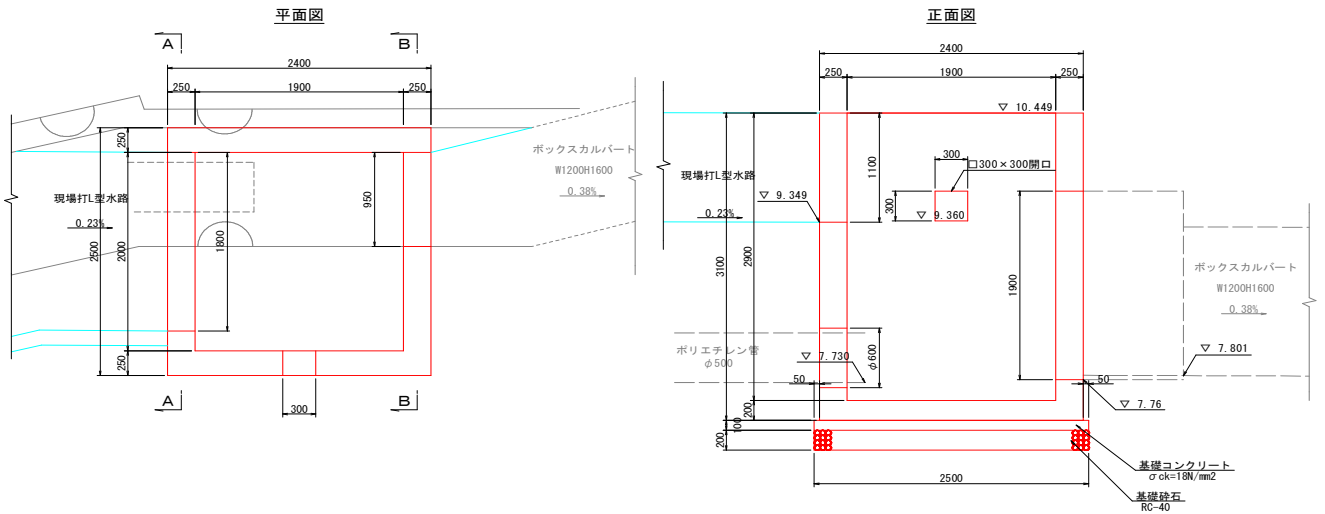
※施工については、現況水路形状を再測して行うこと。

**L=10m 当り**

[illegible]

# 1号集水桝数量計算書

## B2000×L1900×H2900

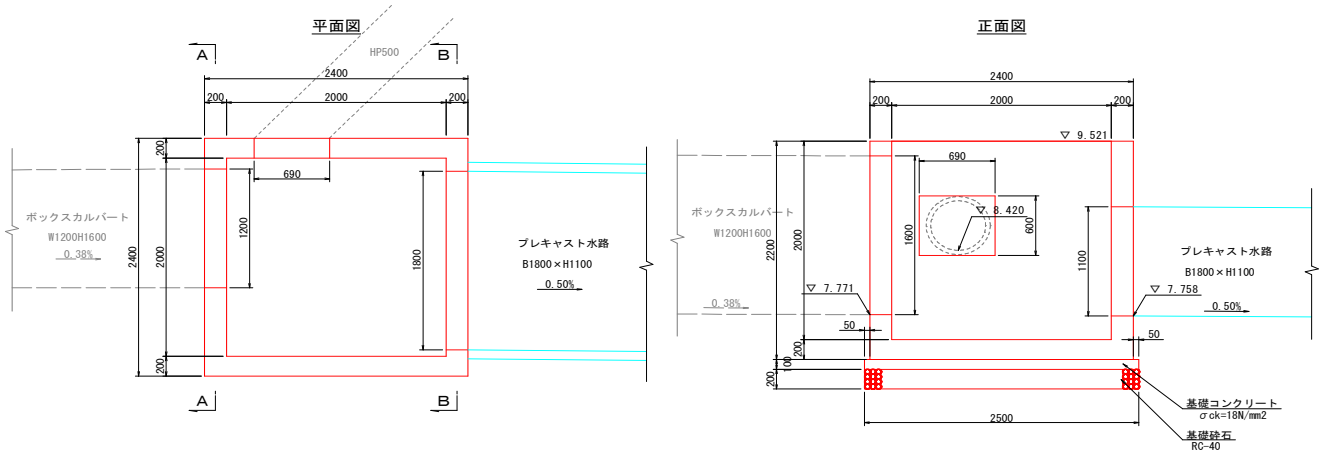


1箇所当り

名 称	規 格	単 位	算 式	数 量
コンクリート	24-12-20	m <sup>3</sup>	$2.40 \times 2.50 \times 3.10 - 1.90 \times 2.00 \times 2.90 - (1.80 \times 1.10 + \pi / 4 \times 0.60 \times 0.60 + 0.30 \times 0.30 + 0.95 \times 1.90) \times 0.25$	6.5
型枠		m <sup>2</sup>	$(2.40 + 1.90 + 2.50 + 2.00) \times 2 \times 3.10$	54.6
基礎コンクリート	18-8-20	m <sup>3</sup>	$2.50 \times 2.60 \times 0.10$	0.7
同上型枠		m <sup>2</sup>	$(2.50 + 2.60) \times 0.10 \times 2$	1.0
基礎砕石	RC-40 t=200mm	m <sup>2</sup>	$2.50 \times 2.60$	6.5
鉄筋	SD345D13	kg		281.0

## 2号集水桝数量計算書

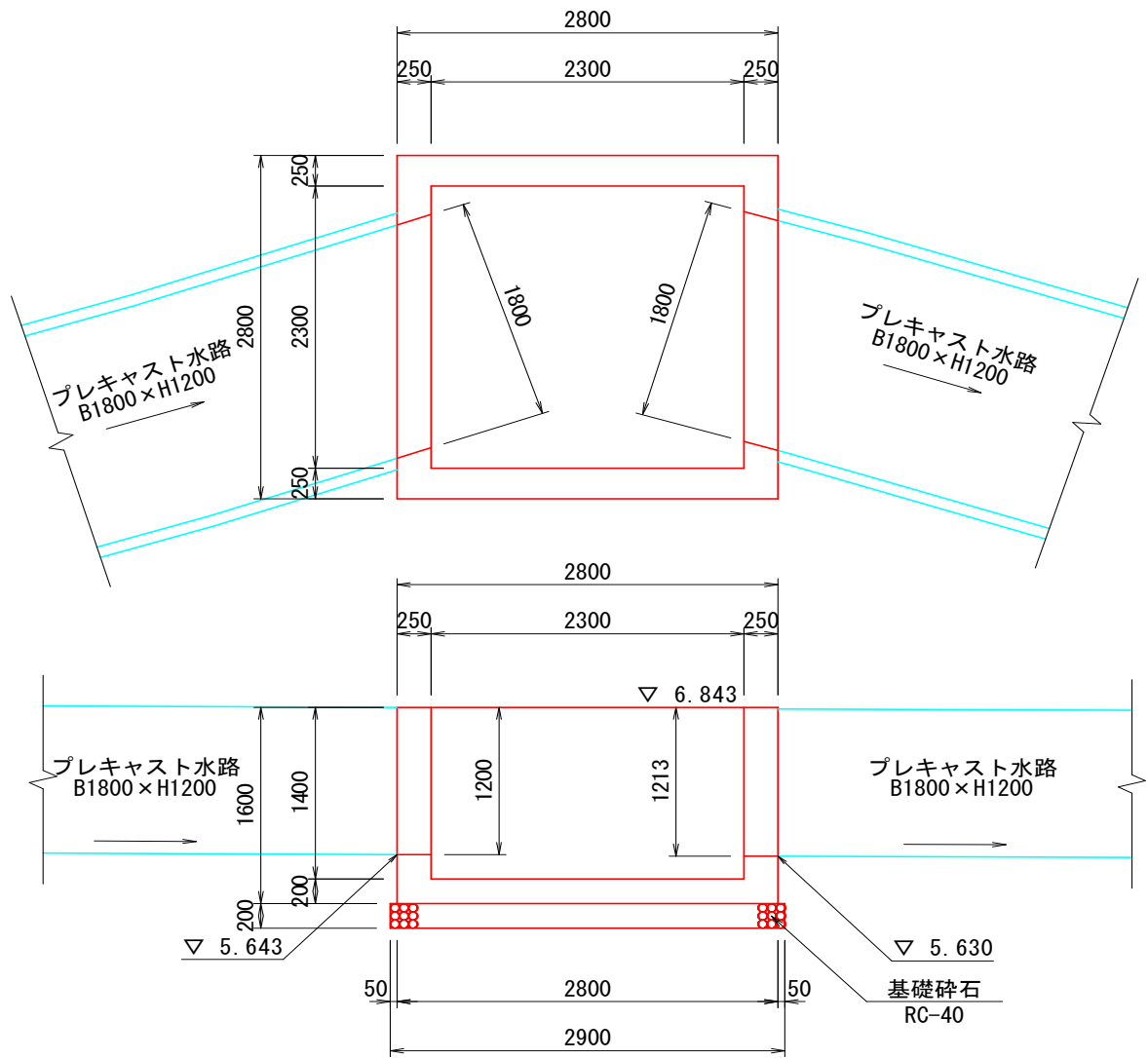
### B2000×L2000×H2000



1箇所当り

名 称	規 格	単位	算 式	数 量
コンクリート	24-12-20	m <sup>3</sup>	$2.40 \times 2.40 \times 2.20 - 2.00 \times 2.00 \times 2.00 - (1.20 \times 1.60 + 0.69 \times 0.60 + 1.80 \times 1.10) \times 0.20$	3.8
型枠		m <sup>2</sup>	$(2.40 + 2.00) \times 4 \times 2.20$	38.7
基礎コンクリート	18-8-20	m <sup>3</sup>	$2.50 \times 2.50 \times 0.10$	0.6
同上型枠		m <sup>2</sup>	$2.50 \times 0.10 \times 4$	1.0
基礎砕石	RC-40 t=200mm	m <sup>2</sup>	$2.50 \times 2.50$	6.3
鉄筋	SD345D13	kg		195.0

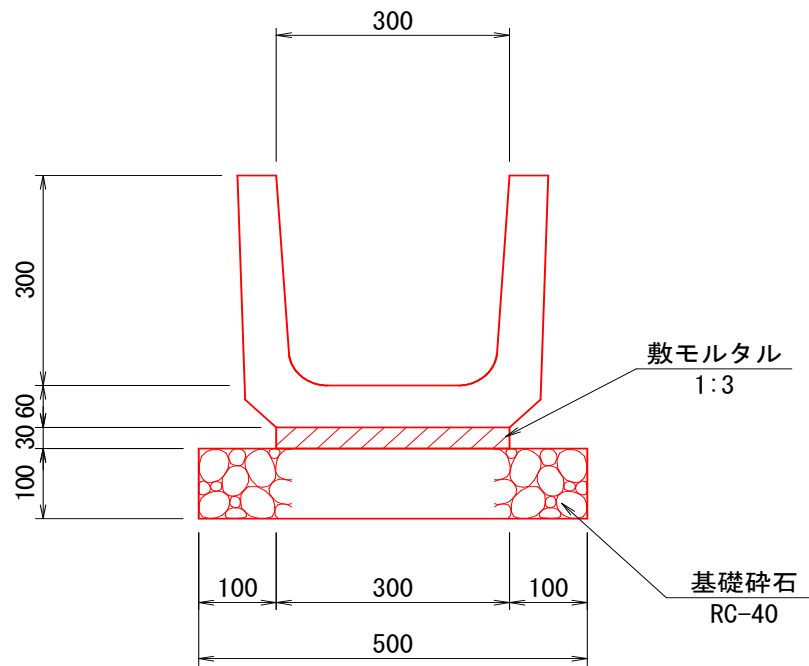
# 3号集水桝数量計算書 B2300×L2300×H1400



1箇所当り

名 称	規 格	単位	算 式	数 量
コンクリート	18-8-40	m3	$2.80 \times 2.80 \times 1.60 - 2.30 \times 2.30 \times 1.40 - (1.80 \times 1.20 + 1.80 \times 1.213) \times 0.25$	4.1
型枠		m2	$(2.80 + 2.30) \times 4 \times 1.60$	32.6
基礎碎石	RC-40 t=200mm	m2	$2.90 \times 2.90$	8.4

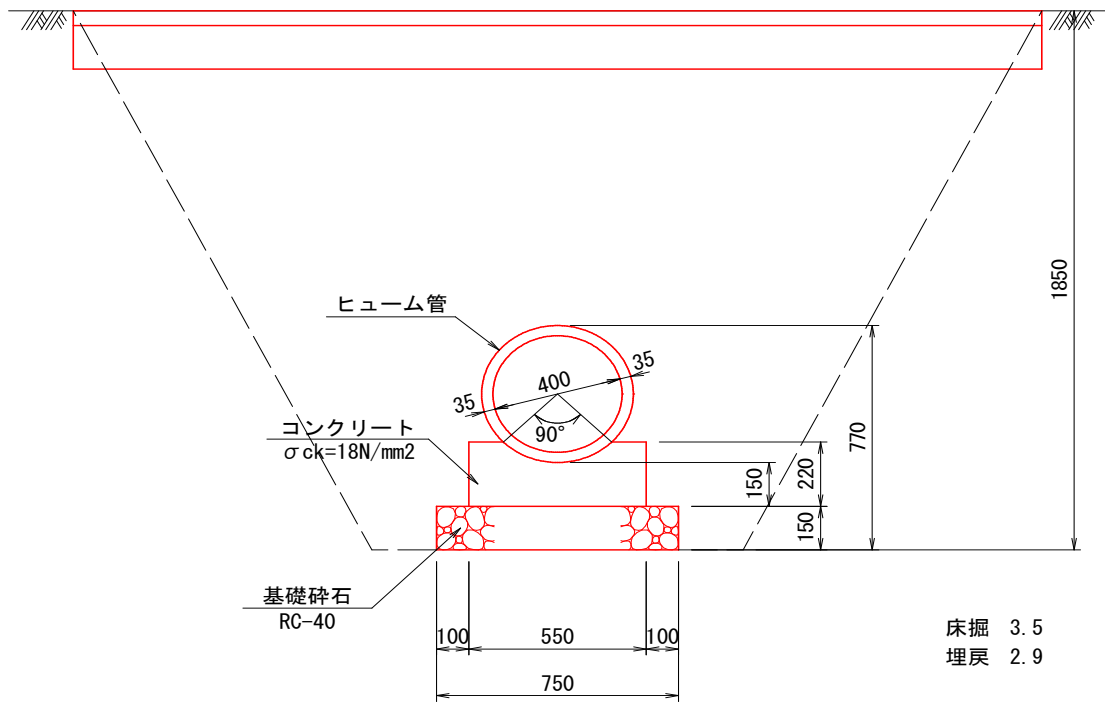
# PU1-300B



L=10m当り

名 称	規 格	単位	算 式	数 量
U型側溝	PU1-300B	個	小構造物標準設計図集	16.500
敷モルタル	1:3	m3	小構造物標準設計図集	0.090
基礎碎石	RC-40 t=100mm	m2	小構造物標準設計図集	5.000

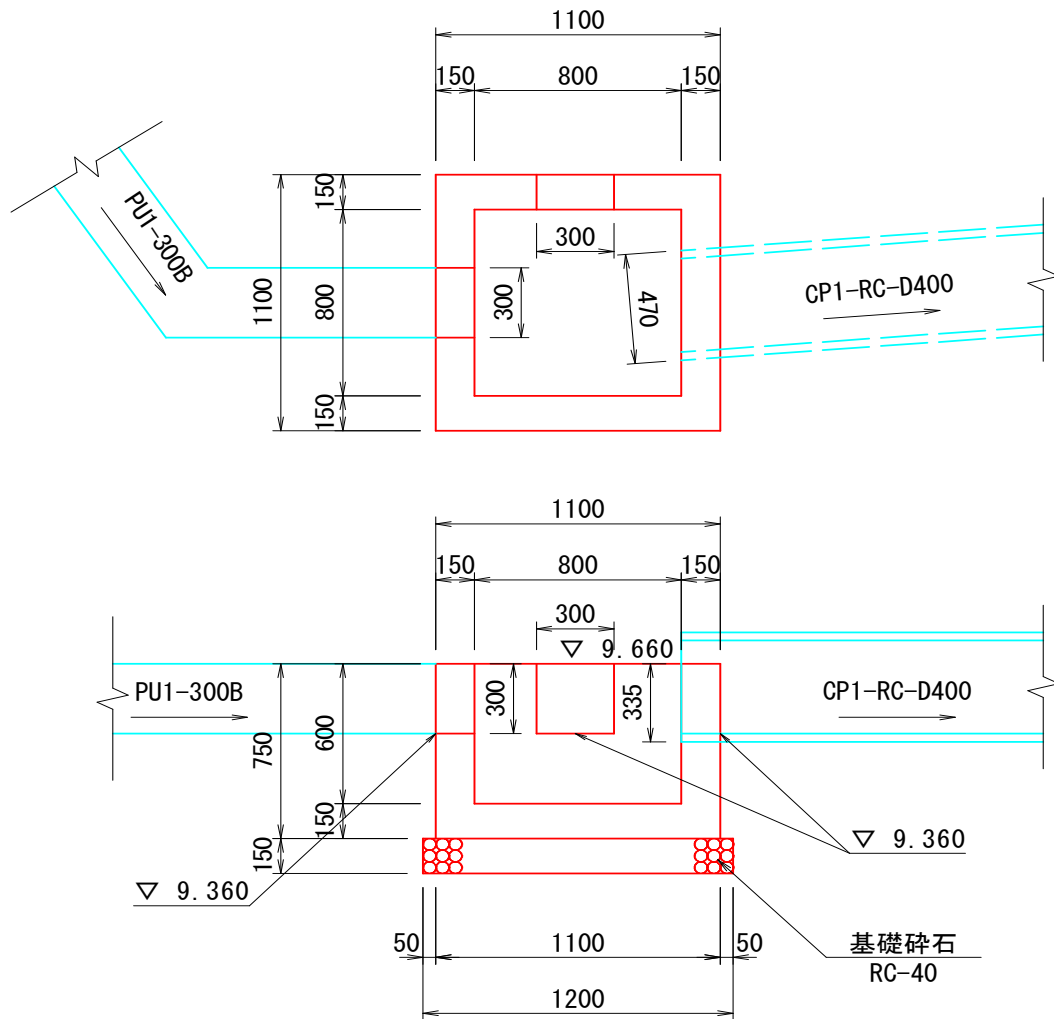
# CP1-RC-D400



L=10m当り

名 称	規 格	単 位	算 式	数 量
ヒューム管	RC管	本	小構造物標準設計図集	4.1
コンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$	m3	小構造物標準設計図集	1.0
型枠		m2	小構造物標準設計図集	4.4
基礎碎石	RC-40 t=150mm	m2	小構造物標準設計図集	7.5
作業土工				
床掘		m3	3.5*10.0	35.0
埋戻		m3	2.9*10.0	29.0

# 4号集水桝数量計算書 B800×L800×H600



1箇所当り

名 称	規 格	単位	算 式	数 量
コンクリート	18-8-20	m3	$1.10 \times 1.10 \times 0.75 - 0.80 \times 0.80 \times 0.60 - (0.30 \times 0.30 \times 2 + 0.47 \times 0.335) \times 0.15$	0.47
型枠		m2	$(1.10 + 0.80) \times 4 \times 0.60$	4.6
基礎碎石	RC-40 t=150mm	m2	$1.20 \times 1.20$	1.4

# 数量計算書

[illegible]



# ○防護柵工

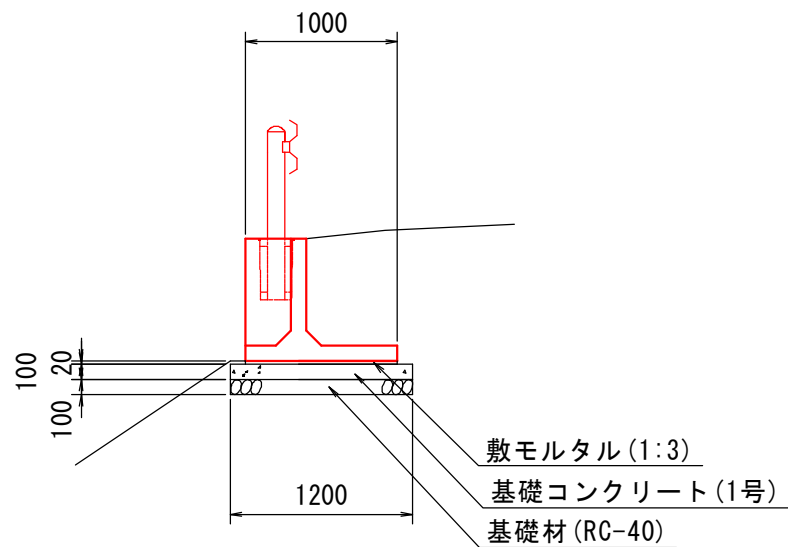


防護柵工 数量計算書

[illegible]

[illegible]

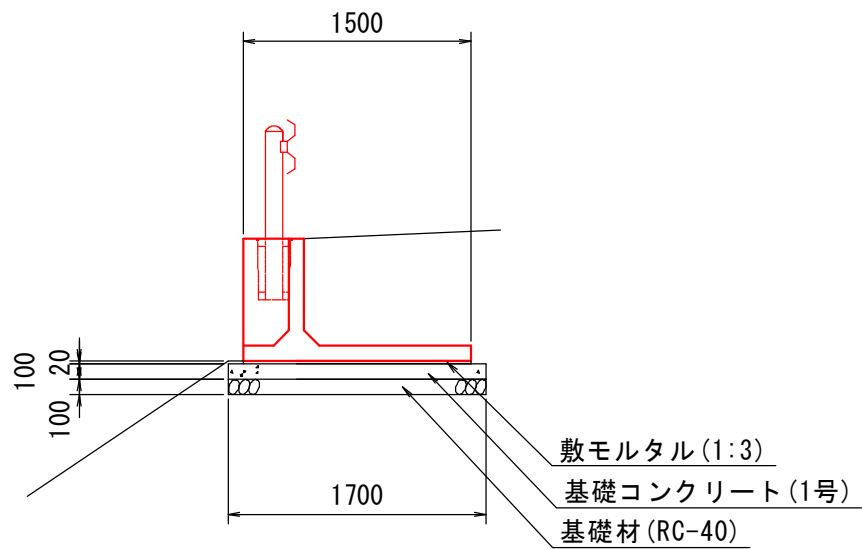
# プレキャスト防護柵基礎(W=1.0m)数量計算書



L=10m当り

名 称	規 格	単位	算 式	数 量
プレキャスト 防護柵基礎		m		10.000
敷モルタル	1:3	m <sup>3</sup>	$1.00 \times 0.02 \times 10$	0.200
基礎コンクリート	1号	m <sup>3</sup>	$1.20 \times 0.10 \times 10$	1.200
同上型枠	均し型枠	m <sup>2</sup>	$0.10 \times 10 \times 2$	2.000
基礎材	RC-40、10cm	m <sup>2</sup>	$1.20 \times 10$	12.000

# プレキャスト防護柵基礎(W=1.5m)数量計算書



L=10m当り

名 称	規 格	単位	算 式	数 量
プレキャスト 防護柵基礎		m		10.000
敷モルタル	1:3	m3	$1.50 \times 0.02 \times 10$	0.300
基礎コンクリート	1号	m3	$1.70 \times 0.10 \times 10$	1.700
同上型枠	均し型枠	m2	$0.10 \times 10 \times 2$	2.000
基礎材	RC-40、10cm	m2	$1.70 \times 10$	17.000

○舗装工





舗装工 数量計算書

[illegible]

舗装工

測 点	距 離	修 正 離	車道舗装						摘 要
			幅	平均 幅	m2	幅	平均 幅	m2	
	0.0		1.00						N0.-1付近同幅
N0. -1	19.6	18.9	1.00	1.000	18.9				
	11.1	5.4	1.00	1.000	5.4				N0.-1付近同幅
	0.0								
N0. 1	20.0								
N0. 2	20.0								
N0. 3	20.0								
N0. 4	20.0								
N0. 5	20.0								
N0. 6	20.0								
N0. 7	20.0								
N0. 8	20.0								
N0. 9	20.0								
N0. 10	20.0								
N0. 11	20.0								
N0. 12	20.0								
N0. 13	20.0								
N0. 14	20.0		5.47						N0.15付近同幅
N0. 15	20.0	1.4	5.47	5.470	7.7				
		2.3	5.47	5.470	12.6				N0.15付近同幅
	0.0		1.45						N0.16付近同幅
N0. 16	14.6	13.0	1.45	1.450	18.9				
N0. 17	20.0		1.44	1.445	28.9				
N0. 18 +12.00	12.0	39.3	0.90	1.170	46.0				
N0. 19	8.0		0.90	0.900	7.2				
	6.1		0.90	0.900	5.5				N0.19付近同幅
RC-D400					9.4				用水復旧部
合 計					160.5				

[illegible]



# ○構造物撤去工



構造物撤去工 数量計算書

[illegible]

#### コンクリート構造物取壊し

	V=	3.6	m3	調整池改良工
	V=	97.5	m3	既設水路取壊し
合計	V=	101.1	m3	

#### As舗装取壊し

$$A= 163.7 \text{ m}^2$$

#### ヒューム管撤去

$$\phi 400$$

$$L= 7.6 \text{ m (NO.0-5.5付近)}$$

$$\phi 1000$$

$$L= 8.6 \text{ m (NO.15付近)}$$



撤去工

測 点	距 離	修 正 距 離	Co取壊し						摘 要
			断面	平均 断面	m3	断面	平均 断面	m3	
	0.0		0.3						N0.-1付近同断面
N0. -1	19.6		0.3	0.30	5.9				
	11.1		0.3	0.30	3.3				N0.-1付近同断面
	0.0		0.2						N0.1付近同断面
N0. 1	20.0		0.2	0.20	4.0				
N0. 2	20.0		0.5	0.35	7.0				
N0. 3	20.0		0.1	0.30	6.0				
N0. 4	20.0		0.2	0.15	3.0				
N0. 5	20.0		0.2	0.20	4.0				
N0. 6	20.0		0.2	0.20	4.0				
N0. 7	20.0		0.2	0.20	4.0				
N0. 8	20.0		0.1	0.15	3.0				
N0. 9	20.0		0.2	0.15	3.0				
N0. 10	20.0		0.1	0.15	3.0				
N0. 11	20.0		0.1	0.10	2.0				
N0. 12	20.0		0.2	0.15	3.0				
N0. 13	20.0		0.2	0.20	4.0				
N0. 14	20.0		0.2	0.20	4.0				
N0. 15	20.0	14.9	0.2	0.20	3.0				N0.14付近同断面
	0.0		0.4						N0.16付近同断面
N0. 16	14.6		0.4	0.40	5.8				
N0. 17	20.0		0.4	0.40	8.0				
N0. 18 +12.00	12.0		0.8	0.60	7.2				
N0. 19	8.0		0.7	0.75	6.0				
	6.1		0.7	0.70	4.3				N0.19付近同断面
合 計					97.5				

撤去工

測 点	距 離	修 正 距 離	As取壊し						摘 要
			幅	平均幅	m2	幅	平均幅	m2	
	0.0		1.15						N0.-1付近同幅
N0. -1	19.6	18.9	1.15	1.150	21.7				
	11.1	5.4	1.15	1.150	6.2				N0.-1付近同幅
	0.0								
N0. 1	20.0								
N0. 2	20.0								
N0. 3	20.0								
N0. 4	20.0								
N0. 5	20.0								
N0. 6	20.0								
N0. 7	20.0								
N0. 8	20.0								
N0. 9	20.0								
N0. 10	20.0								
N0. 11	20.0								
N0. 12	20.0								
N0. 13	20.0								
N0. 14	20.0		5.47						N0.15付近同幅
N0. 15	20.0	1.4	5.47	5.470	7.7				
		2.3	5.47	5.470	12.6				N0.15付近同幅
	0.0		1.41						N0.16付近同幅
N0. 16	14.6	13.0	1.41	1.410	18.3				
N0. 17	20.0		1.39	1.400	28.0				
N0. 18 +12.00	12.0	39.3	0.96	1.175	46.2				
N0. 19	8.0		0.96	0.960	7.7				
	6.1		0.96	0.960	5.9				N0.19付近同幅
RC-D400					9.4				用水復旧部
合 計		80.30			163.7				

○仮設工



仮設工 数量計算書

[illegible]

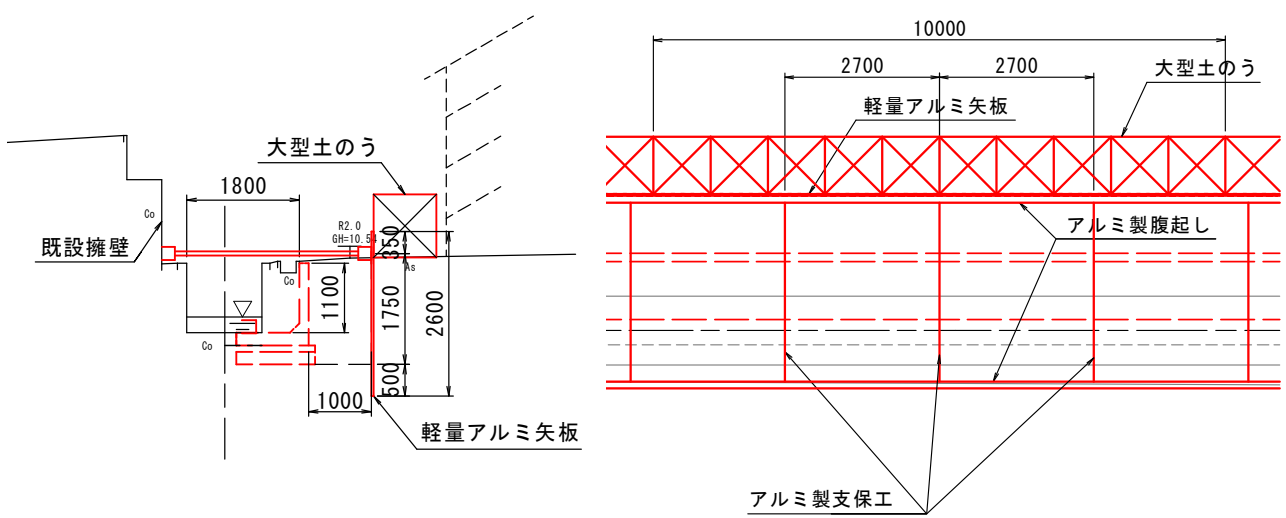
[illegible]

[illegible]

[illegible]



仮設土留数量計算書



L=10m当り

名 称	規 格	単位	算 式	数 量
軽量アルミ矢板	H=2.6m	m (枚)	(1枚当り0.35m→10÷0.35≒28.5=29) (16.67kg/枚(参考重量))	10.0 (29)
アルミ製腹起し		m (本)	10*2 (1本当り4m→10÷4=2.5本×2=5)	20.0 (5)
アルミ製支保工		個		3.0
大型土のう ①製作・設置	H1.0×B1.0×L1.0	袋	1*10	10.0
大型土のう ②撤去・再設置	H1.0×B1.0×L1.0	袋	1*10	20.0
大型土のう ③撤去	H1.0×B1.0×L1.0	袋	1*10	10.0



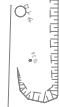
凡例

工事用道路

表土・資材置き場

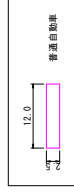
仮畦畔

# 【参考図】仮設工（工事用道路平面図）



表土剥ぎ取り・復旧  
 $V=401 \times 0.2 = 80 \text{ m}^3$

敷設板  $(25 \times 1,524 \times 6.096) \text{ N}=197 \text{ 枚}$   
 $A=1,524 \times 6.096 \times 197 = 1,830 \text{ m}^2$



図面名	(参考) 工事用道路平面図		
縮尺	1:500		
作成主体	公益財団法人 鳥取県環境管理事業センター		

【参考図】仮設工（仮排水・水替工）

排水ポンプ・鋼製沈砂池  
N=1箇所

排水ポンプ・鋼製沈砂池  
N=1箇所

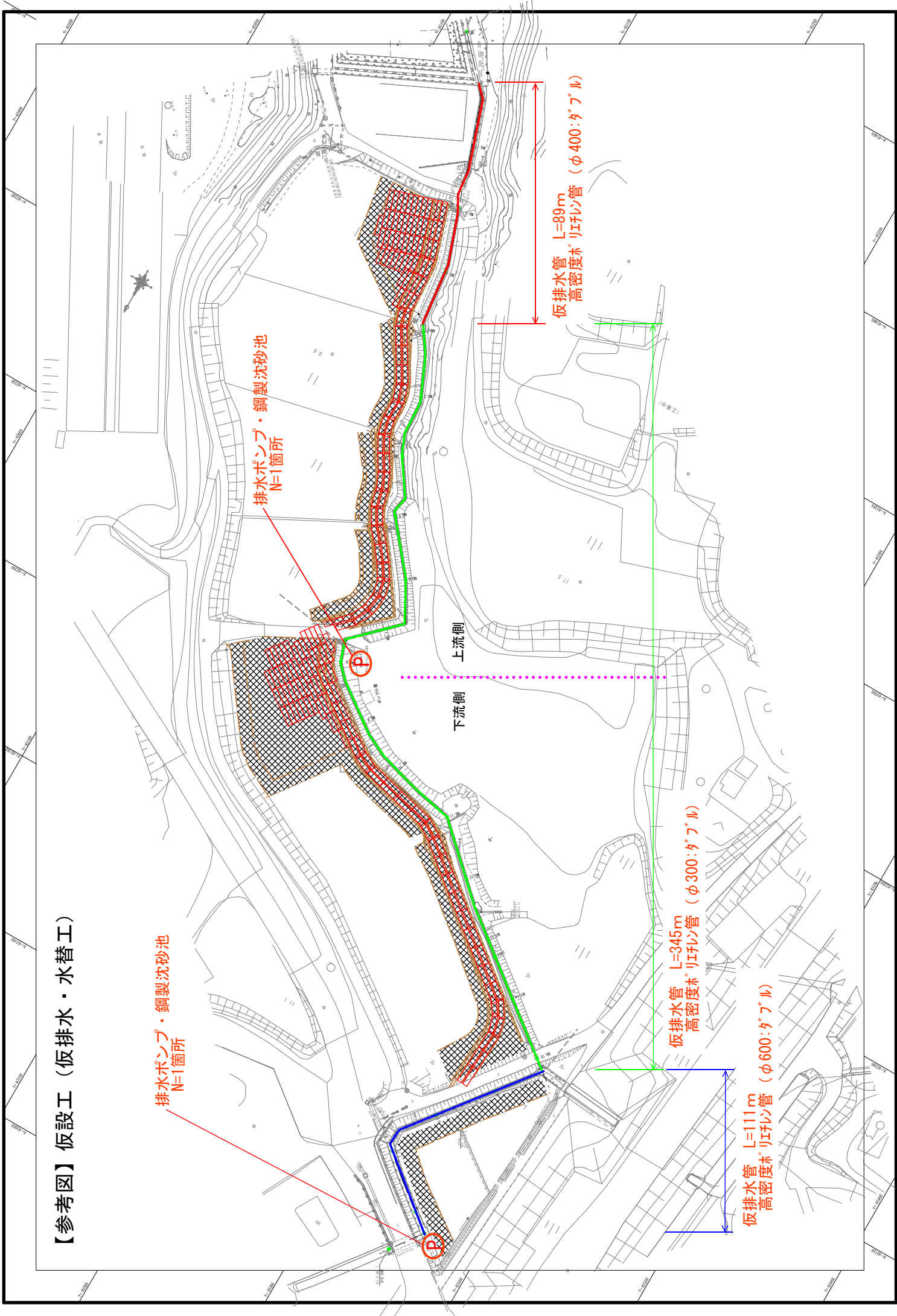
(P)

上流側  
下流側

仮排水管 L=89m  
高密度ポリエチレン管（φ400・タフール）

仮排水管 L=345m  
高密度ポリエチレン管（φ300・タフール）

仮排水管 L=111m  
高密度ポリエチレン管（φ600・タフール）



○その他



その他 数量計算書

[illegible]

役務費(借地料)根拠資料

	地番	地目	借地面積(m2)	備考
1	1369-1	田	104	
2	1370-1	田	42	
3	1371-1	田	255	
4	1378	田	773	
5	1379	田	11	
	1382	用悪水路		
6	1383	田	1,745	
7	1384-1	田	392	
8	1384-2	田	100	私道
9	1385	田	260	
10	1386	田	120	
11	1387	田	201	
12	1388	田	1,016	
	合計		5,019	

地価:3,000m<sup>2</sup>/円

年間損失率:農地の場合 地価の6%/年

借地期間(想定):R8年2月16日からR8年6月16日(約4ヶ月)

借地料=5,019m<sup>2</sup>×3,000m<sup>2</sup>/円×6%×4/12

≒ 301,140 円



環境省令第2103312号

令和3年3月31日

〔各都道府県知事  
各政令市の長  
廃棄物処理センターの長〕 殿

環境省環境再生・資源循環局長

（ 公 印 省 略 ）

廃棄物処理施設整備（課題対応型産業廃棄物処理施設運用支援事業）

交付金交付要綱の取扱いについて（通知）

廃棄物処理施設整備（課題対応型産業廃棄物処理施設運用支援事業）交付金交付要綱については、令和3年3月31日環境省令第2103311号環境事務次官通知の別紙により指示されたところであるが、その取扱いについては別紙「廃棄物処理施設整備（課題対応型産業廃棄物処理施設運用支援事業）交付金取扱要領」により行うこととしたので、通知する。



廃棄物処理施設整備（課題対応型産業廃棄物処理施設運用支援事業）交付金

取扱要領

1. 事業基本計画の提川について

- (1) 交付対象事業者は、廃棄物処理施設整備（課題対応型産業廃棄物処理施設運用支援事業）交付金交付要綱（以下「交付要綱」という。）の第8に定める事業基本計画（以下「事業基本計画」という。）の作成に当たり必要に応じて交付対象事業を所管する都道府県（以下「都道府県」という。）及び環境省と協議を実施すること。
- (2) 交付対象事業者は、作成した事業基本計画を都道府県を経申して環境大臣に提出すること。
- (3) 提出された事業基本計画について、環境省は当該事業基本計画の記載事項の内容や記載もれがないかを確認する等の審査をした上で、速やかに承認するものとする。

2. 特定課題について

- (1) 交付要綱の第2に定める特定課題は、産業廃棄物処理施設の整備及び維持管理等の一種の適正化を図る上で必要とされる取組であって、以下に掲げるものをいう。

ア. 設備等の適切な維持管理

イ. 廃棄物の埋立状況の適切な管理

ウ. 浸出水及び浸透水等による地下水汚染等の防止

エ. 周辺住民からの信頼醸成に資する事業透明性の確保

オ. その他温室効果ガス削減に向けた取組の実施等

- (2) 交付対象事業は、特定課題に係る知見を得るために以下の要件を満たすものとする。

ア. 産業廃棄物処理施設の整備及び維持管理等に関し、先進的な技術的内容を有するものであること。

イ. 交付対象事業に係る施設が適正に管理されるよう、周辺住民の理解の下に、産業廃棄物処理施設に係る管理・運営体制が整備されていること。

ウ. 交付対象事業の推進に当たって、施設の整備に止まらず、周辺住民等に対し、各種の機会をとらえて幅広く交付対象事業の趣旨の啓発・普及を図られるものであること。

エ. 交付対象事業の市場採算性に関する知見を蓄積すると同時に、稼働開始後5年間は、必要に応じて環境大臣に必要な情報を提供し、必要な指示を受けなければならないこと。

オ. 交付対象事業に係る産業廃棄物処理施設の安全性に関する情報公開等を行わなければならないこと。

- 1) 情報公開等を行うに当たっては、処理施設の安全性等に関する説明書を作成して周辺住民に開示するとともに、開示の結果、周辺住民と質疑応答等を行った場合は、当該質疑応答等の結果の概要を環境大臣に報告しなければならないこと。

- 2) 前項の説明書を作成するに当たっては、あらかじめ環境省環境再生・資源循環局廃棄物

規制課と協議しなければならないこと。

- 3) 処理施設の稼働開始後5年間は、処理施設の実際の安全性について点検し、その結果を開示するとともに、開示の結果、周辺住民と質疑応答等を行った場合は、当該質疑応答等の結果の概要を毎年度3月末日までに環境大臣に報告しなければならないこと。

カ. 産業廃棄物管理票について電子情報処理組織に原則対応しているものであること。

3. 交付金の交付の申請について

- (1) 交付対象事業者は、環境大臣あて交付申請することとし、様式第1「交付金交付申請書」を都道府県知事に提出すること。
- (2) 都道府県知事は、交付対象事業に係る交付金の交付が法令及び予算で定めるところに違反しないかどうか、交付対象事業の目的及び内容が適正であるかどうか、金額の算定に誤りがないかどうか、その記載事項に不備又は不適当なものがないかどうか等を審査し、交付金を交付すべきものと認めるときは、様式第2「交付金交付申請報告書」を環境大臣に提出すること。

- (3) 交付対象事業者は、交付金の交付の申請に当たって、当該交付金に係る仕入れに係る消費税等相当額（補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税に相当する額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）に規定する仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額と当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）に規定する地方消費税率を乗じて得た金額との合計額に交付率を乗じて得た金額をいう。以下「消費税等相当額」という。）があり、かつ、その金額が明らかでない場合には、これを減額して申請しなければならない。

ただし、申請時において当該交付金に係る消費税等相当額が明らかでない場合については、この限りではない。

4. 交付金の交付決定変更の申請について

- (1) 交付対象事業における交付金の事業間、費日間の調整は自由であるが、事業基本計画の内容の著しい変更を伴うものは、様式第3「交付金交付決定変更申請書」を第3項の交付金の交付の申請の手続きに準じて提出すること。

- (2) 都道府県知事は、様式第4「交付金交付決定変更申請報告書」を第3項の交付金の交付の申請の手続きに準じて提出すること。

5. 交付の決定について

- (1) 環境大臣は、第3項の規定による交付申請書又は第4項の規定による交付決定変更申請書の提出があった場合には、その内容を審査し、交付金を交付すべきもの又は交付決定の内容を変更すべきものと認めるときは、交付決定又は変更交付決定を行うものとする。また、環境大臣は、交付決定に際して、必要な条件を付すことができる。

- (2) 交付決定を行うに当たっては、当該交付金に係る消費税等相当額について減額して交付の

申請がなされたものについては、これを審査し、適当と認めたときは、当該消費税等相当額を減額するものとする。

また、環境大臣は、交付の申請がなされた全ての交付事業について、当該消費税等相当額について、交付金の額の確定又は消費税の申告後において精算減額又は返還の命令を行うこととし、その旨の条件を付して交付の決定を行うものとする。

(3) 都道府県知事は、(1) で交付決定又は変更交付決定が行われたときは、交付決定通知書又は変更交付決定通知書を交付対象事業者に送付するものとする。

6. 交付対象事業の完了予定期日の変更について

(1) 交付対象事業が予定の期間内に完了しないため、交付対象事業完了予定期日（以下「完了予定期日」という。）を変更しようとする場合は、様式第5「交付対象事業の完了予定期日変更報告書」を第3項の交付金の交付の申請の手続きに準じて環境大臣に報告し、その指示を受けるものとする。

ただし、変更後の完了予定期日が当初の完了予定期日の属する年度を越えない場合で、かつ当初の完了予定期日後6箇月以内である場合は、この限りではない。

(2) 第12項に定める交付金事業年度終了実績報告書について、完了予定期日変更報告書を兼ねる旨及び完了予定期日変更報告書に記載すべき事項が記載されている場合には、当該交付金事業年度終了実績報告書の写しを(1)の完了予定期日変更報告書として取り扱うものとする。

(3) 前号にかかわらず、完了予定期日の変更が事業基本計画の内容の著しい変更に伴う場合は、第4項に規定する交付金の交付決定変更の申請によること。

7. 申請等の様式について

申請書等の様式は、次のとおりとする。

- |                            |       |
|----------------------------|-------|
| (1) 交付金交付申請書               | 様式第1  |
| (2) 交付金交付申請報告書             | 様式第2  |
| (3) 交付金交付決定変更申請書           | 様式第3  |
| (4) 交付金交付決定変更申請報告書         | 様式第4  |
| (5) 交付対象事業の完了予定期日変更報告書     | 様式第5  |
| (6) 交付金中止（廃止）承認申請書         | 様式第6  |
| (7) 交付金事業実績報告書             | 様式第7  |
| (8) 交付金事業年度終了実績報告書         | 様式第8  |
| (9) 消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額報告書 | 様式第9  |
| (10) 交付金交付額確定通知書           | 様式第10 |
| (11) 債権発生通知書               | 様式第11 |
| (12) 交付金交付額確定報告書           | 様式第12 |

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| (13) 交付金精算（概算）払請求書 | 様式第13 |
| (14) 事業基本計画実施状況報告書 | 様式第14 |
| (15) 事業基本計画改善計画書   | 様式第15 |

8. 事業費の費目内容及び算定方法

(1) 交付金の交付の対象となる事業費（以下「交付対象事業費」という。）の区分及び各費目の内容は、別表の第1の1または2の第1欄及び第11欄に掲げるものとする。

なお、様式第1「交付金交付申請書」及び様式第3「交付金交付決定変更申請書」で定められている「工事費」は、本工事費及び工事雑費の総計とする。

(2) 交付対象事業費の算定の要領及び基準については、別表の第1の1または2の第1欄に掲げる区分につきそれぞれ同表の第4欄に掲げる基準額と比較して少ない方の額を選定し、掲げる基準額の合計とする。

なお、産業廃棄物の処理施設が同時に一般廃棄物の処理施設である場合については、当該事業を平成17年4月11日環境省環廃対発050411001号環境事務次官通知の別紙「循環型社会形成推進交付金交付要綱」に準じて交付対象事業費の算定を行うものとする。

(3) 設計単価及び歩掛の算出について、前号の定めにより難い特別な事情があるときは、諸要素を勘案して適正な単価等を用いて算出し、その算出に用いた資料を提出すること。

9. 交付金の中止又は廃止について

交付金の交付の決定があった後、事情の変更等により、交付対象事業の全部若しくは一部を中止し、又は廃止しようとする場合には、様式第6「交付金中止（廃止）承認申請書」を第3項の交付金の交付の申請の手續に準じて提出して承認を受けなければならない。

10. 交付金事業事務の標準的処理期間

- (1) 交付金交付申請の受理後、交付を決定するまでに通常要すべき標準的な期間は30日とする。
- (2) 都道府県知事においては、交付金交付申請書の受理後、環境大臣に提出するまでに通常要すべき標準的な期間は30日とする。

11. 状況報告等

環境大臣は、必要と認めるときは、交付金の交付の決定を受けた交付対象事業者に対して、経理状況その他必要な事項について、報告をさせ又は検査を行うことができるものとする。

12. 実績報告

この交付金の事業実績報告は、事業の完了の日から起算して1か月を経過した日又は翌年度の

4月10日のいずれか早い日までに様式第7「交付金事業実績報告書」を都道府県知事に提出するものとする。

なお、交付対象事業の実施期間内において、国の会計年度が終了したときは、翌年度の4月30日までに様式第8「交付金事業年度終了実績報告書」を都道府県知事に提出しなければならない。

### 13. 消費税及び地方消費税に係る仕入控除額報告

交付対象事業者は、3（3）のただし書きに定めるところにより交付の申請を行った場合において、実績報告書（交付金事業年度終了実績報告書を除く。）を提出するに当たって当該交付金に係る消費税等相当額が明らかになったときには、これを交付金から減額して報告しなければならない。

また、交付対象事業者は、3（3）のただし書きに定めるところにより交付の申請を行った場合において、実績報告書（交付金事業年度終了実績報告書を除く。）を提出した後に、消費税及び地方消費税の申告により当該交付金に係る消費税等相当額が確定したときには、その金額（3（3）の規定により減額した場合は、その金額が減じた額を上回る部分の金額）を別紙様式第9「消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額報告書」により速やかに環境大臣に報告しなければならない。

なお、環境大臣は当該報告があった場合には、消費税等相当額の返還を命ずる。

### 14. 交付金の額の確定等

（1）都道府県知事は、上記12の規定による交付金事業実績報告書または交付金事業年度終了実績報告書の提出があった場合には、書類審査及び必要に応じて行う実地調査等を行い、交付金事業が交付金の交付決定の内容及びこれに付した条件に適合すると認めるときは、交付金の額の確定を行うものとする。

ア、都道府県知事は、審査に当たり中間検査、竣工検査、現地調査等の報告書（復命書）等を準備し、必要に応じて参照し適正を期するものとする。

1）歳入歳出決算議決書、設計計算書、設計図面、公示写真及び契約書の写し等を必要に応じて参照して審査するものとする。

2）都道府県知事は、審査に当たり必要と認める場合には実地による調査を行うものとする。

イ、都道府県知事は、交付の額の確定を行ったときは、以下により交付対象事業者等に対して通知するものとする。

1）都道府県知事は、様式第10「交付金交付額確定通知書」を交付対象事業者に交付するとともに、国の支出官たる都道府県出納長あてその写を一部送付すること。なお、確定事務は、交付金事業実績報告書または交付金事業年度終了実績報告書を受理した後原則として20日以内に完了すること。

2）確定事務を行い返納すべき額が生じた場合には、交付金交付額確定通知書の写を添付の上、様式第11「債権発生通知書」を確定後速やかに歳入徴収官あて送付すること。

ウ、都道府県知事は、上記イにより交付額確定通知書を交付対象事業者に交付した後速やかに、

様式第12「交付額確定報告書」及び交付金事業実績報告書の写を添えて環境大臣あて報告するものとする。

（2）都道府県知事は、交付対象事業者に交付すべき交付金の額を確定した場合において、既にその額を超える交付金が交付されているときは、その超える部分の交付金の返還を命ずるものとする。

（3）（2）の交付金の返還期限は、その命令のなされた日から20日以内とする。ただし、交付対象事業者が交付金の返還のための予算措置につき議会の承認を必要とする場合で、かつ、20日以内の期限により難い場合には、額の確定通知の日から90日以内とすることができる。なお、返還期限内に交付金に相当する額の納付がない場合には、未納に係る金額に対して、その未納に係る期間に応じて年利10.95%の割合で計算した延滞金を徴するものとする。

### 15. 交付金の支払

（1）交付金は、第14項により交付すべき交付金の額を確定した後、支払うものとする。ただし、必要があると認める場合においては、概算払をすることができる。

（2）交付対象事業者は、前項の規定により交付金の支払を受けようとするときは、様式第13「精算（概算）払請求書」を官署支出官に提出しなければならない。

### 16. 交付決定の取消し等

（1）環境大臣は、第9項による交付対象事業の全部若しくは一部の中止若しくは廃止の申請があった場合又は次の各号のいずれかに該当する場合には、5（1）の交付の決定の全部若しくは一部を取り消すことができる。

ア、交付対象事業者が、法令等若しくは交付要綱及びこの交付取扱要綱に基づく環境大臣の指示等に従わない場合

イ、交付対象事業者が、交付金を交付対象事業以外の用途に使用した場合

ウ、交付対象事業者が、交付対象事業に関して不正、怠慢、その他不適当な行為をした場合

エ、天災地変その他交付金の交付の決定後に生じた事情の変更により交付対象事業を遂行することができない場合（交付対象事業者の責めに帰すべき事情による場合を除く。）

（2）環境大臣は、前項の取消しを行った場合は、既に当該取消しに係る部分に關し交付金が交付されているときは、期限を付して当該交付金の全部又は一部の返還を命ずるものとする。

（3）環境大臣は、前項の返還を命ずる場合であつて、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）第17条第1項に基づく交付決定の取消しである場合には、

（1）エに規定する場合を除き、その命令に係る交付金の受領の日から納付の日までの日数に応じて、年利10.95%の割合で計算した加算金の納付を併せて命ずるものとする。

（4）（2）に基づく交付金の返還については、14（3）（ただし書きを除く。）の規定を準用する。

17. 電子情報処理組織による申請等

交付対象事業者又は都道府県は、1. (2) の規定に基づく事業基本計画の提出、2. (2) オ、1) の規定に基づく質疑応答等の結果の概要の報告、同 3) の規定に基づく質疑応答等の結果の概要の報告、3. (1) の規定に基づく交付の申請、同 (2) の規定に基づく交付申請報告、4. (1) の規定に基づく交付決定変更の交付の申請、同 (2) の規定に基づく変更交付申請報告、6. (1) の規定に基づく完了予定期日の変更、9. の規定に基づく中止又は廃止の申請、11. の規定に基づく状況の報告、12. の規定に基づく実績報告及び事業年度完了の報告、13. の規定に基づく消費税及び地方消費税に係る仕入税除税額の確定に伴う報告、14. (1) ウ. の規定に基づく交付額確定の報告、15. の規定に基づく支払請求、16. の規定に基づく事故の報告、17. (1) ウ. の規定に基づく事後評価の報告、又は同エ. の規定に基づく事後評価に対する所見の報告 (以下、「交付申請等」という。) については、電子情報処理組織を使用する方法 (適正化法第 26 条の 2 及び 3 の規定に基づき大臣が定めるものをいう。) により行うことができる。

18. 電子情報処理組織による通知等

大臣は、前条の規定により行われた交付申請等に係る通知、承認、指示又は命令について、当該通知等を電子情報処理組織を使用する方法により行うことができる。

19. 事後評価

- (1) 交付要綱の第 9 第 1 項の規定による事後評価は、次に定めるところにより行うものとする。
- ア. 事後評価は、交付要綱の第 8 第 1 項 (4) に定める特定課題に係る知見を蓄積するための方策の実施状況等について行うものとする。
- イ. 事後評価の報告は、様式第 14 「事業基本計画実施状況報告書」によるものとする。
- ウ. 交付対象事業者は、イ. に定める報告書を交付期間が終了した年度の翌年度の 6 月末までに都道府県知事に提出するものとする。
- エ. 都道府県知事は、ウ. により提出された報告書の内容を評価し、所見を付して交付期間が終了した年度の翌年度の 7 月末までに環境大臣に報告するとともに、交付対象事業者に対し当該所見を通知するものとする。
- (2) (1) の事後評価の結果、実施状況が十分ではないことが明らかとなった場合には、次に定めるところにより、改善を図るものとする。
- ア. 事業基本計画の実施状況が十分ではないことが明らかとなった交付対象事業者は、その要因及び改善に向けた方策等を記載した様式第 15 「事業基本計画改善計画書」を作成して、(1) イの報告書に添付して都道府県知事に提出するものとする。
- イ. 都道府県知事は、ア. により提出された計画書の内容を評価し、所見を付して (1) エの報告と併せて環境大臣に提出するとともに、交付対象事業者に対し当該所見を通知するものとする。
- ウ. イ. により改善計画書の提出を受けた環境大臣は、特に目標達成が見込まれない交付対象事業者に対しては、目標達成に向けた重点的な助言その他必要な措置を行うものとする。

- (3) 交付対象事業者は、事後評価を行った時点で有効な事業基本計画を有する場合、或いは事後評価の実施以降に新たに事業基本計画を作成する場合は、(1) の報告書及び (2) の改善計画書の内容を反映させるものとする。

20. その他

特別の事情により、3 (2)、8 及び 12 に定める算定方法及び手続等によることができない場合には、あらかじめ環境大臣の承認を受けてその定めるところによるものとする。

21. 交付対象事業の細目基準

交付対象事業にあつては、次の各号に該当するものであること。

- (1) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則 (昭和 46 年厚生省令第 35 号) 第 4 条、第 12 条及び第 12 条の 2 又は一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物最終処分場に係る技術上の基準を定める省令 (昭和 52 年総理府・厚生省令第 1 号) 第 1 条第 1 項及び第 2 条第 1 項の規定による技術上の基準に適合したものであること。
- (2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (昭和 45 年法律第 137 号) 第 5 条の 3 第 1 項に規定する計画に適合していること。

22. 交付対象事業の範囲

交付対象事業は、次に掲げる事業であつて、交付対象事業者における交付対象事業費の合計が 10,000 千円以上となるものであること (ただし、産業廃棄物最終処分場事業計画妥当性評価検証に係る事業についてはこの限りではない。 ) 。

- (1) 新設 (更新を含む。以下同じ。) に係る事業

新設に係る事業とは、廃棄物の処理に直接必要な設備及びこれを補充する設備から成る一体的な施設を建設するものであり、交付要綱別表の第 1 項から第 3 項までの事業とする。

- (2) 増設に係る事業

増設に係る事業とは、既に設置されている廃棄物処理施設の処理能力を増強させるため、当該廃棄物処理施設の一部を改造し、又は当該廃棄物処理施設の一部として廃棄物の処理に直接必要な設備を新たに整備するものであり、交付要綱別表の第 1 項から第 3 項までの事業とする。

- (3) 産業廃棄物最終処分場事業計画妥当性評価検証に係る事業

産業廃棄物最終処分場事業計画妥当性評価検証に係る事業とは、産業廃棄物処理施設の事業初期 (施設稼働初年度及びその次年度に限る) における維持管理計画等の事業計画の妥当性を評価・検証し、これを踏まえて適切な改善方策を講じるために必要な調査等を行うものであり、交付要綱別表の第 4 項の事業とする。

23. 交付の対象となる産業廃棄物処理施設等の範囲

交付の対象となる産業廃棄物の処理施設等の範囲は、次のとおりである。

なお、産業廃棄物の処理施設が同時に一般廃棄物の処理施設である場合について、当該事業を平成 17 年 4 月 11 日環境省環境対策 050411001 号環境事務次官通知の別紙「循環型社会形成推進交付金交付要綱」に準じて対象とするものとする。

(1) 管理型最終処分場

ア 埋立処分に直接必要な設備の範囲は、次に掲げるものであること。

- (ア) 管理・計量設備
- (イ) 擁壁、堰堤その他廃棄物の流川防止に必要な設備
- (ウ) 止水壁その他止水に必要な設備
- (エ) 覆蓋設備、雨水排除溝その他雨水、表流水の排除に必要な設備（覆蓋設備は、設置することにより、建設費と維持管理費の合計が、設置しない場合に比較して低額となる場合に限る。）
- (オ) 浸出液集水管その他浸出液の集水に必要な設備
- (カ) 沈でん槽その他浸出液の処理に必要な設備
- (キ) 飛散防止柵その他廃棄物の飛散防止に必要な設備
- (ク) 不燃物処理・資源化設備
- (ケ) 前各号の設備の設置に必要な電気、ガス、水道等の設備（前各号の設備と一体不可分であるものに限る。）

イ. アの施設を補完する設備の範囲は、次に掲げるものであること。

- (ア) 管理棟のうち住民説明等情報公開及び環境教育の川に供する設備等
- (イ) 前各号の設備の設置に必要な植樹、芝張、擁壁、護岸、防潮壁等

(2) 安定型最終処分場

ア 埋立処分に直接必要な設備の範囲は、次に掲げるものであること。

- (ア) 管理・計量設備（展開検査に必要な設備を含む）
- (イ) 擁壁、堰堤その他廃棄物の流川防止に必要な設備
- (ウ) 止水壁その他止水に必要な設備
- (エ) 雨水排除溝その他雨水、表流水の排除に必要な設備
- (オ) 飛散防止柵その他廃棄物の飛散防止に必要な設備
- (カ) 不燃物処理・資源化設備
- (キ) 前各号の設備の設置に必要な電気、ガス、水道等の設備（前各号の設備と一体不可分であるものに限る。）

イ. アの施設を補完する設備の範囲は、次に掲げるものであること。

- (ア) 管理棟のうち住民説明等情報公開及び環境教育の川に供する設備等。
- (イ) 前各号の設備の設置に必要な植樹、芝張、擁壁、護岸、防潮壁等

(3) 遮断型最終処分場

ア 埋立処分に直接必要な設備の範囲は、次に掲げるものであること。

- (ア) 管理・計量設備

- (イ) 外周仕切設備、内部仕切設備
  - (ウ) 止水壁その他止水に必要な設備
  - (エ) 覆蓋設備、雨水排除溝その他雨水の排除に必要な設備
  - (オ) 浸透水採取設備
  - (カ) 飛散防止柵その他廃棄物の飛散防止に必要な設備
  - (キ) 前各号の設備の設置に必要な電気、ガス、水道等の設備（前各号の設備と一体不可分であるものに限る。）
- イ. アの施設を補完する設備の範囲は、次に掲げるものであること。
- (ア) 管理棟のうち住民説明等情報公開及び環境教育の用に供する設備等。
  - (イ) 前各号の設備の設置に必要な植樹、芝張、擁壁、護岸、防潮壁等

附則（平成29年4月1日）

本要領は、平成29年4月1日に施行し、平成29年度予算にかかる交付金事業から適用する。

附則（令和3年 月 日改正）

本要領は、令和3年4月1日に施行し、令和3年度予算にかかる交付金事業から適用する。

## 第1章 算定基準

### 1. 直営施工の場合

I 区分	II 費目	III 細分	IV 基準額
工事費	本工事費	材料費	別に定める「主要資材単価」の範囲内で事業実施可能な単価を基準とし、環境大臣に協議して承認を得た額。
		労務費	別に定める「職種別賃金月額」及び「工事設計標準歩掛表」の範囲内で事業実施時期地域の実情等を考慮し環境大臣に協議し承認を得た額。
事務費	工事雑費 旅費及び 庁費	労務者保険料	交付対象事業者が直接支弁する当該本工事費から賃金の支弁される労務者に係る労務者保険料であって関係各法令に定められた額の合計額とする。
		その他諸費	材料費、労務費及び労務者保険料以外の経費で本工事に要する諸掛りの費川（特許費、保管料、仮設費、安全費、役務費、委託料）とし、環境大臣に協議し承認を得た額。
			直営施工に係る工事費（工事雑費を除く。）に次に定める率を乗じて得た額の範囲内とする。
			直営施工に係る工事費（工事雑費を除く。） 3.5%
			工事費（工事雑費を除く。）に次の各号に定める率を乗じて得た額の範囲内とする。
			なお、各対応額の率を適用した場合の額が直近下位の最高額に満たない場合は、当該最高額の範囲内において増額することができ。
			(1) 工事費が 5,000万円以下の場合 3.5%
			(2) 工事費が 5,000万円を超え 10,000万円以下の場合 3.0%
			(3) 工事費が10,000万円を超え 30,000万円以下の場合 2.5%
			(4) 工事費が30,000万円を超え 50,000万円以下の場合 2.0%
			(5) 工事費が50,000万円を超え 100,000万円以下の場合 1.0%
			(6) 工事費が100,000万円を超える場合 0.5%

## 2. 請負施工の場合

I 区分	II 費目	III 細分	IV 基準額
工事費	本工事費	(直接工事費) 材料費	別に定める「主要資材単価」の範囲内で事業実施可能な単価を基準とし、環境大臣に協議して承認を得た額。
		労務費	別に定める「職種別賃金口額」及び「工事設計標準歩掛表」の範囲内で事業実施時期、地域の実情等を考慮し環境大臣に協議し承認を得た額。
		直接経費	直接工事費のうち直接経費については、特許使用料、水道、光熱、電力料（工事施工に直接必要とする分）の費用で環境大臣に協議し承認を得た額及び機械器具損料の合計額とする。
		(間接工事費) 共通仮設費	このうち、機械器具損料については、別に定める「機械器具損料表」による。  間接工事費のうち、共通仮設費については、 (1) 工事の施工に必要な機械器具等の運搬、移動に要する費用 (2) 準備、断片付け整地等に要する費用 (3) 機械設備の設置撤去及び仮道布設現道補修等に要する費用 (4) 仮設工事材料置場等の土地の借上げに要する費用及び電力用水等の基本料金に要する費用 (5) 技術管理に要する費用 (6) 現場事務所、労務者宿舍及び資材置場等の営繕に要する費用（以下「営繕損料」という。） (7) 労務者輸送に要する費用（以下「労務者輸送費」という。） (8) 交通の管理、安全施設に要する費用 (9) 環境対策に要する費用の合計額をいう。



I 区分	II 費目	III 細分	IV 基準額
			<p>なお、やむを得ない事由により工事を分割して施工する場合は、当該分割した工事ごとに算出すること。この場合、各対応額の率を適用して算出した額が直近下位の最高額に満たない場合には、当該最高額の範囲内において増額することができる。</p> <p>(1) 純工事費（営繕損料、労務者輸送費、安全費及び環境対策費を除く。以下(2)～(4)において同じ。）が500万円以下の場合 2.5%</p> <p>(2) 純工事費が500万円を超え1,000万円以下の場合 1.9%</p> <p>(3) 純工事費が1,000万円を超え3,000万円以下の場合 1.5%</p> <p>(4) 純工事費が3,000万円を超える場合 1.0%</p> <p><b>労務者輸送費</b>については、純工事費から共通仮設費のうち営繕損料、労務者輸送費、安全費及び環境対策費を除いた額に次の各号に定める率を乗じて得た額の範囲内とする。</p> <p>なお、やむを得ない事由により工事を分割して施工する場合は、当該分割した工事ごとに算出すること。この場合、各対応額の率を適用して算出した額が直近下位の最高額に満たない場合には、当該最高額の範囲内において増額することができる。</p> <p>(1) 純工事費（営繕損料、労務者輸送費、安全費及び環境対策費を除く。以下(2)～(9)において同じ。）が100万円以下の場合 7.0%</p> <p>(2) 純工事費が100万円を超え200万円以下の場合 5.5%</p> <p>(3) 純工事費が200万円を超え500万円以下の場合 4.3%</p> <p>(4) 純工事費が500万円を超え800万円以下の場合 3.3%</p> <p>(5) 純工事費が800万円を超え2,000万円以下の場合 2.0%</p> <p>(6) 純工事費が2,000万円を超え3,000万円以下の場合 1.7%</p>

I 区分	II 費目	III 細分	IV 基準額
			<p>(7) 純工事費が3,000万円を超え5,000万円以下の場合 1.3%</p> <p>(8) 純工事費が5,000万円を超え10,000万円以下の場合 0.8%</p> <p>(9) 純工事費が10,000万円を超える場合 前号において算出される額の最高額。</p> <p><b>純工事費</b>（当該施設の工事に支給品がある場合には、支給品費を加算し、<b>特殊製品（付表）</b>がある場合には、当該特殊製品費の2分の1に相当する額を減額すること。以下同じ。）に次の各号に定める率を乗じて得た額の範囲内とする。</p> <p>なお、やむを得ない事由により工事を分割して施工する場合は、当該分割した工事ごとに算出すること。この場合、各対応額の率を適用して算出した額が直近下位の最高額に満たない場合には、当該最高額の範囲内において増額することができる。</p> <p>(1) 純工事費が1,000万円以下の場合 12.5%</p> <p>(2) 純工事費が1,000万円を超え2,000万円以下の場合 10.5%</p> <p>(3) 純工事費が2,000万円を超え5,000万円以下の場合 9.0%</p> <p>(4) 純工事費が5,000万円を超え7,000万円以下の場合 8.0%</p> <p>(5) 純工事費が7,000万円を超える場合 7.5%</p> <p><b>直接工事費と間接工事費の合計額（以下「工事原価」という。）</b>に次の各号に定める率を乗じて得た額の範囲内とする。</p> <p>なお、やむを得ない事由により工事を分割して施工する場合は、当該分割した工事ごとに算出すること。この場合、各対応額の率を適用して算出した額が直近下位の最高額に満たない場合には、当該最高額の範囲内において増額することができる。</p> <p>(1) 工事原価が500万円以下の場合 14.0%</p> <p>(2) 工事原価が500万円を超え1,000万円以下の場合 13.5%</p>
		現場管理費	
		一般管理費	

第2 費用の説明

交付対象事業の経費（以下「事業費」という。）は、工事費及び事務費に大別され、工事費は更に本工事費及び工事雑費は、旅費及び庁費に、また事務費は、旅費及び庁費に分けられるが各費目の内容は次の各号によるものである。

1. 「本工事費」とは

- (1) 事業の主体をなす施設の工事（工事に必要な準備工事を含む。以下「本工事」という。）の施工に直接必要な材料費（材料の運搬費及び保管料を含む。）、労務費及び交付対象事業者等が負担する労務者保険料（労働保険料、厚生年金保険料、健康保険料等）並びにこれら以外の経費で本工事費に要する歩掛の費川をいう。

ただし、請負施工の場合にあっては、直接工事費、間接工事費及び一般管理費等をいう。

(2) 「直接工事費」とは

直接工事費は、箇所又は工事種類により各工事部門を工種、種別及び各称に区分し、それぞれの区分ごとに材料費、労務費及び直接経費の三要素について結算するものをいう。

ア. 材料費

工事を施工するに必要な材料の費用で別に定める主要資材単価表を標準とし、買入れに要する費用及びこれに伴う運搬費及び保管料の合計額をいう。

イ. 労務費

直接工事費のうち、労務費については、別に定める職種別賃金日額表及び工事設計標準歩掛表の標準単価を標準とする。

ウ. 直接経費

工事を施工するに直接必要とする経費でその算定は次によるものをいう。

- (ア) 特許使用料 契約に基づき使用の特許の使用料及び派出する技術者等に要する費用の合計額をいう。

- (イ) 水道光熱電力料 工事を施工するに必要な電力、電灯使用料及び用水使用料をいう。

- (ウ) 機械器具損料 工事を施工するに必要な機械の使用に要する経費（材料費、労務費を除く。）で別に定める「機械損料表」による。

(3) 「間接工事費」とは

ア. 間接工事費は、各工事部門共通の前号以外の工事費及び経費とし、共通仮設費及び現場管理費に分類するものをいう。

イ. 「共通仮設費」とは、次に掲げるものについて積算するものとする。

- (ア) 運搬費 工事施工に必要な機械器具等の運搬現場内の器具等の移動等に要する費用をいう。

- (イ) 準備費 工事施工に必要な、準備、跡片付け、調査、測量、丁張り（調査費に含まれるものを除く。）、伐開整地及び除草等に要する費用をいう。

- (ウ) 仮設費 機械設備の設置、撤去及び仮道、仮橋現場補修、川水並びに電力等の供給設備等に要する費用をいう。

- (エ) 役務費 仮設工事、材料置場等の土地の借上げ及び電力・用水等の基本料金等に要する費用をいう。

- (オ) 技術管理費 品質管理のための試験、出来形管理のための測量及び技術管理上必要

I 区分	II 費目	III 細分	IV 基準額
事務費	工事雑費		(3) 工事原価が1,000万円を超え4,000万円以下の場合 13.0%
			(4) 工事原価が4,000万円を超え10,000万円以下の場合 12.5%
			(5) 工事原価が10,000万円を超え20,000万円以下の場合 12.0%
			(6) 工事原価が20,000万円を超える場合 11.5%
			請負施工に係る工事費（工事雑費を除く。）に次に定める率を乗じて得た額の範囲内とする。
			1.0%
	旅費及び 庁費		工事費（工事雑費を除く。）に次の各号に定める率を乗じて得た額の範囲内とする。
			なお、各対心額の率を適用した場合の額が直近下位の最高額に満たない場合は、当該最高額の範囲内において増額することができる。
			(1) 工事費が5,000万円以下の場合 3.5%
			(2) 工事費が5,000万円を超え10,000万円以下の場合 3.0%
			(3) 工事費が10,000万円を超え30,000万円以下の場合 2.5%
			(4) 工事費が30,000万円を超え50,000万円以下の場合 2.0%
			(5) 工事費が50,000万円を超え100,000万円以下の場合 1.0%
			(6) 工事費が100,000万円を超える場合 0.5%

付表

特殊製品とは、次のものをいう。

管、弁類、ポンプ、モーター、コンクリート製並びに鉄製枕、計測設備、電気設備、破碎機、圧縮機、切斷機、脱臭設備、脱水機、攪拌装置、ウェストバーナー、脱硫装置（主として乾式）、撤水機、減齒機、プロアー、ボイラー、加温設備、汚泥かき寄機、高圧ポンプ、コンプレッサー、熱交換機、反応塔、油圧装置、コンベアー、レンガ、ストッカー、灰出設備、電気集塵機、サイクロン、その他完成された製品として設置することによって効用を発揮するものをいう。ただし、現場加工されるものを除く。

な資材の作成に要する費用をいう。

(カ) 営繕掛料 現場事務所、試験室、労働者宿舍、倉庫及び材料保管場等の営繕に要する費用をいう。

(キ) 労働者輸送費 労働者輸送に要する費用をいう。

(ク) 安全費 交通管理及び安全施設等に要する費用をいう。

(ケ) 環境対策費 工事現場における環境改善や地域との融和等の環境対策の実施に要する費用をいう。

ウ、「現場管理費」とは、請負業者が工事を施工するために必要な現場経費であって、労働管理費、地代家賃、水道光熱費、運賃、消耗品費、通信運搬費及びその他に要する費用をいう。(特殊製品については付表参照)

(4) 「一般管理費」とは、請負業者が工事を施工するために必要な一般管理費及び利潤等であって、諸給与、福利厚生費、事務用品費、通信運搬費、保険料、公租公課、旅費及びその他に要する費用をいう。

(5) 「工事雑費」とは、交付対象事業者が当該施設の工事等の施工に付随して要する費用であって、工事の現場事務に必要な備品費、消耗品費、賃金、印刷製本費、光熱水料通信運搬費、雑役務費、連絡旅費、及び工期に関係ある職員給与(退職手当金を除く。)並びにこの費目から賃金又は給与が支弁される者に係る交付対象事業者負担の労働者災害補償保険料等、その他に要する費用をいう。

2. 「事務費」とは、交付対象事業者が事業施工のために直接必要な事務に要する費用であって、旅費及び庁費〔賃金(労働保険料を含む)、需川費(消耗品費、燃料費、食糧費、印刷製本費、光熱水料及び修繕費)、委託料、使用料、賃借料、通信運搬費、監督料及び備品費等の人件費並びに物件費〕をいう。

### 第3 交付対象事業費の算定要領

#### 1. 工事費について

##### (1) 本工事費の区分

ア、本工事費は、事業の主体をなす施設の工事費であって、次のものについて算定すること。

(ア) 作業廃棄物の処理に直接必要な設備の設置に係る工事費

(イ) (ア)の設備を補充する設備のうち、管理棟の設置に係る工事費(住民説明等情報公開及び環境教育の用に供する部分に限る。)

##### (2) 直接工事費

ア、材料費

材料費は工事を施工するために必要な材料の費川とし、その算定は、次の(ア)及び(イ)によるものとする。

(ア) 数量

数量は、標準使用量に運搬、貯蔵及び施工中の損失量を実状に即して加算することができること。

(イ) 仙格

仙格は、別に定める主要資材単価表に基づくものとするが、これがない場合には原則として入札時における市場価格とするものとし、これに買入れに要する費用及びこれに伴う運搬費及び保管料を加算するものとする。

イ、労務費

労務費は、工事を施行するために必要な労務の費川とし、その算定は次の(ア)及び(イ)によるものとする。

(ア) 所要人員

所要人員は、原則として現場条件及び工事規模を考慮して工事ごとに算定するが一般に過去の実績及び検討により得られた標準的な歩掛りを使用するものであり、別に定める工事標準歩掛表に基づいて算定するものとする。

(イ) 労務賃金

労務賃金は、労働者に支払われる賃金であって、基本給及び副増賃金というものであること。基本給は、別に定める職種別賃金月額表を使用するものとする。基本作業外の作業及び特殊条件による作業に従事した場合に支払われる賃金を副増賃金といい、副増賃金は従事した時間及び条件によって加算することができる。

##### (3) 特殊製品

特殊製品とは、管理された工場において、原材料を混合及び成型または組立を行う等加工工程を経て生産し、一般に市販されている製品等であって、設計積算に当たって購入(特注を含む。)の上使用することを予定しているものであること。

特殊製品は、交付要綱別表の付表に掲げるもののほか次のものが該当すること。

ア、コンクリート製品

(ア) ブロック(積、張、平、逆節、根固、消波、空洞、縁石、U型、枠、境界、歩

様式第1 交付金交付申請書  
様式第1ー1

識別番号	番 号
	年 月 日

環 境 大 臣 殿

申 請 者 氏 名

令和 年度廃棄物処理施設整備（課題対応型産業廃棄物処理施設運用支援事業）交付金  
交付申請書

令和 年度廃棄物処理施設整備（課題対応型産業廃棄物処理施設運用支援事業）交付金事業について、  
交付金の交付を受けたいので、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律第5条の規定により、  
関係書類を添えて申請します。

1	申 請 額	金 円（うち消費税相当額 t／ll又はh a	円）
(1) 処理能力			
(2) 処理方式			
2	事業計画説明書	別紙 (1) 号	
3	年度別事業計画調書	〃 (2) 号	
4	国庫交付金所要額調書	〃 (3) 号	
5	財政調書	〃 (4) 号	
6	本工事費種別明細書	〃 (5) 号	
7	工事雑費明細書	〃 (6) 号	
8	事務費明細書	〃 (7) 号	
9	代価表に基づく単価・一覧表	〃 (8) 号	
10	都道府県知事意見書	〃 (9) 号	

本件責任者及び担当者の氏名、連絡先等

- (1) 責任者の所属部署・職名・氏名
- (2) 担当者の所属部署・職名・氏名
- (3) 連絡先（電話番号・Eメールアドレス）

- (注) 1. 交付金別表の第4項の事業にあっては、6～9に代えて事業費の内訳が確認できる書面を添付すること。
2. 全体事業における工期が2カ年以上にまたがるが、契約を一括して初年度に行う場合においては、初年度のみ6～9の全体調書を作成し、2カ年日以降の事業については、6～9は作成不要であること。ただし、各調書において、変更がある場合には該当する調書を作成するもの

道)

- (イ) 杭 (杭界、PC、RC)
- (ウ) 板 (PC、RC)
- (エ) 柱 (PC、RC)
- (オ) 矢板 (PC、RC)
- (カ) 管 (ヒューム、PC、RC、無筋コンクリート)
- (キ) 集水ます、街蓋、方格材、RC板、柵、ボックスカルバート、組立擁壁
- イ、鉄鋼及び金属製品
- (ア) 桁 (I形鋼、H形鋼、溝形鋼、山形鋼)
- (イ) 杭 (H形鋼、鋼管、簡易鋼)
- (ウ) 鋼柱 (照明、標識)
- (エ) 矢板 (鋼、簡易鋼、鋼管)
- (オ) 管 (鋼、鋳鉄、コルゲート)
- (カ) 支保工用H形鋼
- (キ) 簡易組立式橋梁、組立式歩道、ライナープレート、覆工板
- (ク) ガードレール、ガードロープ、フェンス、ガードパイプ、落石防止柵、道路鋸、舗装用鉄鋼、鋼格子床板
- ウ、ゴム・合成樹脂製品
- (ア) 合成樹脂管
- (イ) ドレンホース
- (ウ) 吸出防止材
- エ、電気製品
- 電気材料及び機器
- オ、その他
- (ア) 石綿管
- (イ) 陶管
- (ウ) 拒線誘導票、標識、カーブミラー、情報板、吸防音壁、落石防止網、タイル、消雪パイプ
- (エ) 線手
- カ、半製品
- (ア) 生コンクリート
- (イ) 生アスファルト合材
- (ウ) 凍結防止材

2. 事務費事務費のうち備品費は、原則として取得価格1品目15万円未満のものについて算定するものとし、15万円以上のものについては、あらかじめ環境大臣に協議し、その承認を得たものに限って算定することができること。

とすること。

3. 10 は、申請者が廃棄物処理センターの長又は PFI 選定事業者の長である場合において添付すること。

(添付書類) 交付要綱別表第 1 項から第 3 項に掲げる事業にあっては、以下の書類を添付すること。

- 1 設計図面（定測平面図であること。）
    - (1) 一般平面図
      - ア. 行政平面図（縮尺 1／25,000～1／50,000 程度）
        - 行政区域、計画収集地域、建設予定地、搬入道路及び放流先等の概況を明示した図面
      - イ. 主要構造物の配置平面図面（縮尺 1／100～1／500 程度）
        - 主要な構造物及び設備の配置を明示し、各構造物及び設備の名称、構造物の連絡配管並びに排水管を記入した図面。
    - (2) その他必要な図面
      - 断面図を添付すること。
  - (注) 図面作成上の注意事項
    - ①一般平面図は実測平面図であること。
    - ②主要構造物の配置平面図は、建物にあっては、各階ごとに作成すること。
    - ③主要構造物の配置平面図は、次の区分により色分けすること。
      - ア. 当該年度交付対象事業（交付基本額）赤色
      - イ. 当該年度単独事業 緑色
      - ウ. 次年度以降の事業 黄色
      - エ. 前年度からの継続事業で実施済事業分及び既存施設 黒色
- ただし、主要な構造物又は設備全体がア～エの区分の一つに属する場合は色分けする必要はなく、その旨図中に〇〇年度交付対象事業と明記すること。

2 歳入・歳出予算書（又は見込書）抄本  
国庫交付金の歳入のうち廃棄物処理施設整備事業に係る額を明記するものとし、当該予算支出欄には、科目ごとに廃棄物処理施設整備事業に係る額を明記するものとする。

3 契約済の場合には当該契約書又は仮契約書の写し

4 用地取得にあたっては内容が明記された用地売買契約書の写し

5 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条第 1 項に基づく産業廃棄物処理施設の設置許可証の写し。なお、設置許可証の写しを添付できない場合は、添付できない理由を添付すること。

(注) 全体事業における工期が 2 カ年以上にまたがる場合において、2 カ年目以降の事業については、次のこと。

1. 1 の (1) のア及び (2) は不要であること。ただし、変更がある場合には、該当する図面を添付すること。

2. 3 及び 4 の契約書は、当該年度の前年度以前の交付申請書に既に添付されており、かつ、変更がない場合には不要であること。